

洲大陸旅行日程

特208

754



日本郵船株式會社

List No. A-102

Printed in Japan
Imprimé au Japon

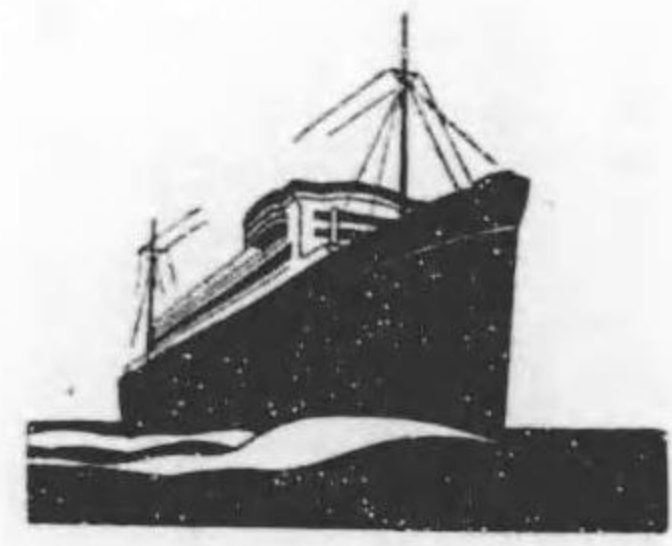


始



特208
754

歐州大陸旅行日程



日本郵船



歐洲大陸旅行日程

本書に収めた旅程表は當社船で御渡歐になり、諸方御見物の上、再び當社船により御歸朝になる各位の爲めに作製したものであります。歐洲から北米經由で御歸朝なさる方、又其逆コースを取らるゝ方にも利用出来るものであります。それからカイロ、パレスタイン等を見物し、坡西土で當社船に乗船する旅程表も加へて置きました。

旅程は孰れも二港間の汽車及び汽船による一般的標準旅程であります。旅行の目的、日数の長短に應じ、又は飛行機、乗合自動車等を利用する場合には、取捨按配を要することは申上げる迄ありません。

爲替の變動及國に依つては特定期間中特別割引汽車賃を實施する所もあります。是等旅行に要する旅費を掲げることは事實上困難でありますので倫敦より歐洲主要地に至る汽車賃のみ、御参考の爲載せる事にしました。

ホテル料金も各都市共其ホテルに依り、又同一ホテルでも使用室により、種々の料金が設けられて居りますから、單に参考案内書名を掲げるに止めました。

尙歐洲では旅程の作成より汽車賃、ホテル賃等に至る旅行萬般に關し、トマス・クック社 (Thos. Cook & Son) を始め信用ある旅行業社を利用することは賢明な策かと存じます。

當社は倫敦に支店を有し、其他主要地には代理店を設けて居ります。又歐米兩地に於てキユナード・ホワイト・スター社は當社の船客業務代理店ですから、同社の各地支店並に代理店は等しく當社の船客事務を取扱ひ致します。

當社では北米經由御歸朝なさる方に對し、大西洋汽船、北米横斷鐵道及び當社太平洋航路船を含む割引通し切符を發賣致して居りますから、精々御利用を願ひます。

本書旅程表にある地名の日本語の書方は主として文部省が認定するものを用ひました。即ち左の通りであります。

原名

日本がき

英吉利

London

倫敦

旅行日程

旅程 第一

ナポリ發 倫敦著

- 第一日……ナポリ著
- 第二日……ボンペイ及ヴェスヴィアスへ
- 第三日……午前羅馬向發
- 第四日……羅馬滞在
- 第五日……午後ベニス向發
- 第六日……ベニス滞在
- 第七日……午前ミラノ向發
- 第八日……午前ジュネーヴ向發
- 第九日……ジュネーヴ滞在
- 第十日……午前ルツェルン向發
- 第十一日……ルツェルン滞在
- 第十二日……午前チューリヒ經由ミュンヘン向發
- 第十三日……午後伯林向發

- 第十四日……伯林滞在
- 第十五日……午後ケルン向發
- 第十六日……午後巴里向發
- 第十七日……巴里滞在
- 第十八日……正午倫敦向發

旅程 第二 A

馬耳塞發 倫敦著

- 第一日……朝リヨン向馬耳塞發
- 第二日……午後ジュネーヴ向發
- 第三日……ジュネーヴ滞在
- 第四日……ローザンヌ及シンプロン經由ミラノ向發
- 第五日……午後ベニス向發
- 第六日……ベニス滞在
- 第七日……朝フローレンス向發

旅程 第二 B

馬耳塞發 倫敦著

- 第八日……フローレンス滞在
- 第九日……ナポリ向發
- 第十日……ナポリ滞在
- 第十一日……朝羅馬向發
- 第十二日……羅馬滞在
- 第十三日……ミラノ向發
- 第十四日……**ロチベルグ (Loetschberg) 經由ヘルン向發**
- 第十五日……ベルン滞在
- 第十六日……ベール經由フランクフルト向發
- 第十七日……午後伯林向發
- 第十八日……伯林滞在
- 第十九日……アムステルダム向發
- 第二十日……朝ハীগ向發
- 第二十一日……朝ブルツェル向發
- 第二十二日……午後巴里向發
- 第二十三日……巴里滞在
- 第二十四日……倫敦向發

- 第一日……馬耳塞著
- 第二日……馬耳塞滞在
- 第三日……リヨン經由ジュネーヴ向發
- 第四日……ジュネーヴ滞在
- 第五日……午後ベルン向發
- 第六日……ベルン滞在
- 第七日……ロチベルグ及シンプロン經由ミラノ向發
- 第八日……ミラノ滞在
- 第九日……午後ゼノア向發
- 第十日……ゼノア滞在
- 第十一日……羅馬向發
- 第十二日……羅馬滞在
- 第十三日……午後ナポリ向發
- 第十四日……ナポリ滞在
- 第十五日……フローレンス向發

二十日……フロレンス滞在
 二十一日……午後ベニス向發
 二十二日……ベニス滞在
 二十三日……深夜ベニス發
 二十四日……夕刻遅く維也納著
 二十五日……維也納滞在
 二十六日……伯林向發
 二十七日……伯林向發
 二十八日……伯林滞在
 三十一日……伯林滞在
 三十二日……朝漢堡向發
 三十三日……漢堡滞在
 三十四日……ハーク向發
 三十五日……ハーク向發
 三十六日……ハーク滞在
 三十七日……午後ブルツセル向發
 三十八日……ブルツセル滞在
 三十九日……午後巴里向發
 四十日……巴里滞在
 四十四日……巴里滞在
 四十五日……倫敦向發

十八日……午前ベルン向發
 十九日……午後インタールーケン向發
 二十日……ユング・フラウ (Jung Frau) 登山
 二十一日……午前ルツエルン向インタールーケン發
 二十二日……ルツエルン滞在
 二十三日……午前チューリヒ向發
 二十四日……午前維也納向發
 二十五日……維也納滞在
 二十六日……午後伯林向發
 二十七日……伯林滞在
 二十八日……伯林滞在
 三十一日……午前漢堡向發
 三十二日……漢堡滞在
 三十三日……午前ハーク向發
 三十四日……ハーク滞在
 三十五日……午前アントワープ向發
 三十六日……ブルツセル向發
 三十七日……ブルツセル滞在
 三十八日……午後巴里向發
 三十九日……巴里滞在
 四十二日……巴里滞在
 四十三日……午後倫敦向發

旅程 第二 C

馬耳塞發 倫敦著

第一日……馬耳塞著
 二日……午後ニース向發
 三日……午前ゼノア向發
 四日……午前ピザ向發
 五日……午前羅馬向發
 六日……羅馬滞在
 七日……午前ナポリ向發
 八日……ナポリ滞在
 九日……午前フロレンス向發
 十日……午前ベニス向發
 十一日……午前ミラノ向發
 十二日……ジュネーヴ滞在
 十三日……午後ジュネーヴ向發
 十四日……午後漢堡向發
 十五日……漢堡滞在

旅程 第三 A

馬耳塞發 ナポリ著

第一日……馬耳塞著
 二日……午後リヨン向馬耳塞發
 三日……午後巴里向發
 四日……巴里滞在
 五日……午後倫敦向發
 六日……倫敦滞在
 七日……午前ブルツセル向發
 八日……ブルツセル滞在
 九日……午前アントワープ向發
 十日……午後ハーク向發
 十一日……ハーク滞在
 十二日……アムステルダム向發
 十三日……午前ブレメン向發
 十四日……午後漢堡向發
 十五日……漢堡滞在

二十四日……午後コペンハーゲン向發
 二十五日……コペンハーゲン滞在
 二十六日……オスロ向發
 二十七日……オスロ滞在
 二十八日……午前ストックホルム向發
 二十九日……ストックホルム滞在
 三十日……午後伯林向發
 三十一日……伯林滞在
 三十四日……午後ブランスウィック (Brunswick) 向發
 三十五日……午後デュセルドルフ (Dusseldorf) 向發
 三十六日……午後デュセルドルフ (Dusseldorf) 向發
 三十七日……午後フランクフルト向發
 三十八日……午後ヌレンベルヒ (Nuremberg) 向發
 三十九日……午後維也納向發
 四十日……維也納滞在
 四十一日……維也納滞在
 四十二日……午前ミュンヘン向發
 四十三日……午後チューリヒ向發
 四十四日……チューリヒ滞在
 四十五日……午前ルツエルン向發
 四十六日……ルツエルン滞在

五日……倫敦向發
 六日……倫敦滞在
 九日……午前ブルツセル向發
 十一日……ブルツセル滞在
 十二日……午前伯林向發
 十三日……伯林滞在
 十五日……午前維也納向發
 十六日……維也納滞在
 十七日……午後チューリヒ向發
 十九日……ルツエルン向發
 二十日……午前ベルン向發
 二十一日……午後ジュネーヴ向發
 二十二日……午後ミラノ向發
 二十三日……午後ベニス向發
 二十四日……ベニス滞在
 二十五日……午前フロレンス向發
 二十六日……フロレンス滞在
 二十七日……午後羅馬向發
 二十八日……羅馬滞在
 二十九日……羅馬滞在
 三十日……午前ナポリ向發

四十七日……午前インターラーケン向發
 四十八日……ユングフラウ (Jung Frau) 登山
 四十九日……ベルン向インターラーケン發
 五十日……午前ジュネーヴ向發
 五十一日……午前ゼノア向發
 五十二日……午前ミラノ向發
 五十三日……午後ベニス向發
 五十四日……ベニス滞在
 五十五日……午前フロレンス向發
 五十六日……フロレンス滞在
 五十七日……午前羅馬向發
 五十八日……羅馬滞在
 五十九日……羅馬滞在
 六十日……羅馬滞在
 六十一日……ナポリ向發

旅程 第三 B

馬耳塞發 ナポリ著
 第一日……巴里向馬耳塞發
 第二日……巴里滞在
 第四日……巴里滞在

旅程 第四 A

倫敦發 倫敦著
 第一日……オステンド經由ブルツセル向倫敦發
 第二日……ブルツセル滞在
 第三日……午後安土府向發
 第四日……安土府滞在
 第五日……朝ロツテルダム向發
 第六日……朝ハーグ向發
 第七日……ハーグ滞在
 第八日……午後阿姆斯特ダム向發
 第九日……阿姆斯特ダム滞在
 第十日……漢堡向發
 第十一日……漢堡滞在
 第十二日……午後伯林向發
 第十三日……伯林滞在
 第十四日……午後羅馬向發
 第十五日……羅馬滞在
 第十六日……羅馬滞在
 第十七日……羅馬滞在
 第十八日……羅馬滞在
 第十九日……羅馬滞在
 第二十日……羅馬滞在
 第二十一日……羅馬滞在
 第二十二日……羅馬滞在
 第二十三日……羅馬滞在
 第二十四日……羅馬滞在

二十五日……夜維也納發
 二十六日……夕刻ベニス著
 二十七日……ベニス滞在
 二十九日……朝フローレンス向發
 三十日……朝フローレンス向發
 三十一日……夜ナポリ向發
 三十三日……夜ナポリ向發
 三十四日……夜ナポリ向發
 三十五日……ナポリ滞在
 三十八日……午後羅馬向發
 三十九日……午後羅馬向發
 四十日……羅馬滞在
 四十一日……羅馬滞在
 四十四日……ゼノア向發
 四十五日……ゼノア向發
 四十六日……ゼノア滞在
 四十七日……朝ミラノ向發
 四十八日……ミラノ滞在
 四十九日……シンプロン及ロチベルグ
 經由ベルン向發
 五十日……ベルン滞在
 五十一日……午後ジュネーヴ向發
 五十二日……ジュネーヴ滞在
 五十三日……ジュネーヴ滞在
 五十四日……朝リヨン向發
 五十五日……リヨン滞在
 五十六日……午後巴里向發

十五日……フローレンス滞在
 十六日……ナポリ向發
 十七日……ナポリ滞在
 十八日……午後羅馬向發
 十九日……羅馬滞在
 二十日……羅馬滞在
 二十一日……ミラノ向發
 二十二日……シンプロン及ロチベルグ
 經由ベルン向發
 二十三日……ベルン滞在
 二十四日……朝ジュネーヴ向發
 二十五日……ジュネーヴ滞在
 二十六日……巴里向發
 二十七日……巴里滞在
 二十九日……巴里滞在
 三十日……倫敦向發

旅程 第四 C

倫敦發 倫敦著

第一日……オステンド經由ブルツセル向倫敦發
 第二日……ブルツセル滞在
 第三日……ブルツセル滞在

五十七日……巴里滞在
 六十四日……倫敦向發
 六十五日……倫敦向發

旅程 第四 B

倫敦發 倫敦著

第一日……オステンド經由ブルツセル向倫敦發
 二日……ブルツセル滞在
 三日……朝ハーグ向發
 四日……朝阿姆斯特ダム向發
 五日……阿姆斯特ダム滞在
 六日……伯林向發
 七日……伯林滞在
 八日……午後ルツエルン向發
 九日……午後ルツエルン向發
 十日……朝ルツエルン著(フランクフルト及ベールを経由)
 十一日……朝ミラノ向發
 十二日……午後ベニス向發
 十三日……ベニス滞在
 十四日……朝フローレンス向發

四日……朝安土府向發
 五日……午後ロツテルダム向發
 六日……午後ハーグ向發
 七日……ハーグ滞在
 八日……朝阿姆斯特ダム向發
 九日……阿姆斯特ダム滞在
 十日……漢堡向發
 十一日……漢堡滞在
 十二日……パデボーク(Paddeborg)經由
 コペンハーゲン向發
 十三日……コペンハーゲン滞在
 十四日……ゲテホルグ向發
 十五日……ゲテホルグ滞在
 十六日……オスロ向發
 十七日……オスロ滞在
 十八日……ストックホルム向發
 十九日……ストックホルム滞在
 二十日……ストックホルム滞在
 二十一日……マルモ(Malmo)經由夕刻伯林向發
 二十二日……夕刻伯林著
 二十三日……伯林滞在
 二十五日……伯林滞在

二十六日……維也納向發
 二十七日……維也納滞在
 二十八日……夜ベニス向發
 二十九日……夕刻ベニス著
 三十日……ベニス滞在
 三十一日……朝フローレンス向發
 三十二日……朝フローレンス滞在
 三十三日……フロレンス滞在
 三十四日……ナポリ向發
 三十五日……ナポリ滞在
 三十六日……午後羅馬向發
 三十七日……羅馬滞在
 三十八日……ゼノア向發
 三十九日……ゼノア滞在
 四十日……ミラノ向發
 四十一日……ミラノ滞在
 四十二日……午後ルツエルン向發
 四十三日……ルツエルン滞在
 四十四日……午後ベルン向發
 四十五日……ベルン滞在
 四十六日……朝ジュネーヴ向發
 四十七日……朝ジュネーヴ滞在

五十三日……ジュネーヴ滞在
 五十四日……巴里向發
 五十五日……巴里滞在
 五十九日……倫敦向發
 六十日……倫敦向發

旅程 第四 D

倫敦發 倫敦著

第一日……巴里向倫敦發
 第二日……巴里滞在
 第三日……ツールーズ(Toulouse)向發
 第四日……巴塞ロナ向發
 第五日……巴塞ロナ滞在
 第六日……マドリッド向發
 第七日……マドリッド滞在
 第八日……グラナダ向發
 第九日……グラナダ滞在
 第十日……セヴィラ向發
 第十一日……セヴィラ滞在
 第十二日……セヴィラ滞在

十七日……マドリッド向發
 十八日……マドリッド滞在
 十九日……ブルゴス向發
 二十日……サン・セバスチアン向發
 二十一日……サン・セバスチアン滞在
 二十二日……ピアリッツ向發
 二十三日……ピアリッツ滞在
 二十四日……ポルドー向發
 二十五日……巴里向發
 二十六日……巴里滞在
 二十七日……倫敦向發
 二十八日……倫敦向發

旅程 第五 A

倫敦發 馬耳塞著

第一日……巴里向倫敦發
 第二日……巴里滞在
 第三日……午前ブルツセル向巴里發
 第四日……ブルツセル滞在
 第五日……午前ピザ向發

六日……午前アントワープ向發
 七日……午前ハーグ向發
 八日……午前漢堡向發
 九日……午前伯林向發
 十日……伯林滞在
 十一日……維也納向發
 十二日……維也納滞在
 十三日……午後チューリヒ向發
 十四日……午後ルツエルン向發
 十五日……午前インターラーケン向發
 十六日……ユングフラウ(Jung Frau)登山
 十七日……午前ベルン向インターラーケン發
 十八日……午前ジュネーヴ向發
 十九日……午後ミラノ向發
 二十日……ベニス向發
 二十一日……午前ナポリ向發
 二十二日……ナポリ滞在
 二十三日……午前羅馬向發
 二十四日……羅馬滞在
 二十五日……午前ピザ向發
 二十六日……午前ピザ向發

二十八日……午前ゼノア向發
 二十九日……午前ニース(Nice)向發
 三十日……午前馬耳塞向發

旅程 第五 B

倫敦發 馬耳塞著

第一日……巴里向倫敦發
 第二日……巴里滞在
 第三日……朝ブルツセル向發
 第四日……ブルツセル滞在
 第五日……午後ハーグ向出發
 第六日……ハーグ滞在
 第七日……漢堡向發
 第八日……漢堡滞在
 第九日……朝伯林向發
 第十日……伯林滞在
 第十一日……維也納向發
 第十二日……維也納滞在
 第十三日……維也納滞在

二十一日……夜ベニス向發
 二十二日……夕刻ベニス著
 二十三日……ベニス滞在
 二十四日……早朝フローレンス向發
 二十五日……フローレンス滞在
 二十六日……ナポリ向發
 二十七日……ナポリ滞在
 二十八日……朝羅馬向發
 二十九日……羅馬滞在
 三十日……ゼノア向發
 三十一日……ゼノア滞在
 三十二日……ミラノ向發
 三十三日……ミラノ滞在
 三十四日……シンプロン及ロツチバーク經由
 三十五日……ベルン向發
 三十六日……ベルン滞在
 三十七日……朝ジュネーヴ向發
 三十八日……ジュネーヴ滞在
 三十九日……リヨン經由馬耳塞向發
 四十日……馬耳塞滞在
 四十一日……馬耳塞發歸國の途に就く
 四十二日……馬耳塞發歸國の途に就く
 四十三日……馬耳塞發歸國の途に就く
 四十四日……馬耳塞發歸國の途に就く
 四十五日……馬耳塞發歸國の途に就く

旅程 第六 A

倫敦發 ナポリ著

第一日……午前巴里向倫敦發
 第二日……巴里滞在
 第三日……午前ブルツセル向發
 第四日……ブルツセル滞在
 第五日……午後アントワープ向發
 第六日……アントワープ滞在
 第七日……午前漢堡向發
 第八日……漢堡滞在
 第九日……午後伯林向發
 第十日……伯林滞在
 第十一日……午前維也納向發
 第十二日……維也納滞在
 第十三日……維也納滞在
 第十四日……午後ミュンヘン向發
 第十五日……ミュンヘン滞在
 第十六日……チューリヒ向發
 第十七日……チューリヒ滞在
 第十八日……午後ベルン向發
 第十九日……ベルン滞在
 第二十日……午後ゼノア向發

旅程 第六 B

倫敦發 ナポリ著

第一日……午前巴里向倫敦發
 第二日……巴里滞在
 第三日……午後ブルツセル向發
 第四日……ブルツセル滞在
 第五日……午前アントワープ向發
 第六日……アントワープ滞在
 第七日……午後ハーグ向發
 第八日……ハーグ滞在

十三日……午前デュセルドルフ (Dusseldorf) 向發
 十四日……午前ケルン向發
 十五日……午前ハノーフェル向發
 十六日……午前ブレメン向發
 十七日……午後漢堡向發
 十八日……漢堡滞在
 十九日……午後コペンハーゲン向發
 二十日……コペンハーゲン滞在
 二十一日……午前オスロ向發
 二十二日……オスロ滞在
 二十三日……午前ストックホルム向發
 二十四日……ストックホルム滞在
 二十五日……午後伯林向發
 二十六日……伯林滞在
 三十一日……午前フランクフルト向發
 三十二日……フランクフルト滞在
 三十三日……午後ヌレンベルヒ (Nuremberg) 向發
 三十四日……午前維也納向發
 三十五日……維也納滞在
 三十六日……

三十九日……ミュンヘン向發
 四十日……ミュンヘン滞在
 四十一日……午後チューリヒ向發
 四十二日……チューリヒ滞在
 四十三日……午前ルツエルン向發
 四十四日……ルツエルン滞在
 四十五日……午後インターラーケン向發
 四十六日……ユング・フラウ (Jung Frau) 登山
 四十七日……午前ベルン向インターラーケン發
 四十八日……ベルン滞在
 四十九日……午前ジュネーヴ向發
 五十日……午後ゼノア向發
 五十一日……午後ミラノ向發
 五十二日……ミラノ滞在
 五十三日……午前ベニス向發
 五十四日……ベニス滞在
 五十五日……フロレンス向發
 五十六日……フロレンス滞在
 五十七日……羅馬向發

五十八日……羅馬滞在
 六十一日……午前ナポリ向發
 六十二日……

旅程 第七

旅程 第三A、第三B、第六A、
 第六B、の延長

カイロ、エルサレム見物

第一日……アレキサンドリア向ナポリ發(汽船)
 二日……汽船中
 三日……アレキサンドリア著
 四日……アレキサンドリア滞在
 五日……午前カイロ向發
 六日……カイロ滞在
 七日……エルサレム向發
 八日……聖地巡禮
 九日……坡土西向發
 十日……

旅程 第八

坡西土下船、埃及及びパレ
 スタイン見物

第一日……坡西土滞在
 二日……カイロ向發
 三日……カイロ滞在
 四日……午前アレキサンドリア向發
 五日……アレキサンドリア滞在
 六日……午前エルサレム向發
 七日……聖地巡禮
 八日……午前ダマスカス向發
 九日……ダマスカス滞在
 十日……坡西土向發

上記旅程により坡西土下船カイロ・パレスタイン
 等見物後再び同地乗船御希望の船客は次便船に船
 室保留に付豫め御注意を願ひます

旅程 第九

バルカン、トルコ、シリア、パレスティン及埃及見物

- 第一日……坡西土下船カイロ向發
- 第二日……カイロ滞在
- 第三日……午前アレキサンドリア向發
- 第四日……アレキサンドリア滞在
- 第五日……午前エルサレム向發
- 第六日……聖地巡禮
- 第七日……ダマスカス向發
- 第八日……ダマスカス滞在
- 第九日……午後アレツポ (Aleppo) 向發
- 第十日……午前カラヒサー (Kara Hissar) 向發
- 第十一日……イスタンブル向發
- 第十二日……イスタンブル滞在
- 第十三日……午前アドリアノーブル向發
- 第十四日……アドリアノーブル滞在

旅程 第十

バルカン、希臘、土耳其、シリア及埃及見物

- 第二十一日……午前ソフィア (Sofia) 向發
 - 第二十二日……ブカレスト向發
 - 第二十三日……ブカレスト滞在
 - 第二十四日……ブダペスト向發
 - 第二十五日……汽車中
 - 第二十六日……ブダペスト着
 - 第二十七日……ブダペスト滞在
 - 第二十八日……維也納向發
- 伊太利に出るのはアドリアノーブルからベルグラド、フューメ、トリエストを経るのが順序であります。
- 第一日……午前ブダペスト向維也納發
 - 第二日……ブダペスト滞在

- 第三日……午後ベルグラド向發
- 第四日……ベルグラド滞在
- 第五日……午前サロニカ向發
- 第六日……サロニカ滞在
- 第七日……午前アゼンス (Athens) 向發
- 第八日……アゼンス滞在
- 第九日……午後汽車又は汽船にてイスタンブル向發
- 第十日……汽車又は汽船中
- 第十一日……イスタンブル着
- 第十二日……イスタンブル滞在
- 第十三日……午前カラヒサー (Kara Hissar) 向發
- 第十四日……午後イズミール向發
- 第十五日……イズミール滞在
- 第十六日……午前アダナ (Adana) 向發
- 第十七日……午前ダマスカス向發
- 第十八日……ダマスカス滞在
- 第十九日……午前ダマスカス發
- 第二十日……聖地巡禮
- 第二十一日……午前カイロ向發
- 第二十二日……午後カイロ向發

- 第二十六日……カイロ滞在
- 第二十七日……午前アレキサンドリア向發
- 第二十八日……アレキサンドリア滞在
- 第二十九日……午後坡西土向發

倫敦—巴里—伯林間の航空旅客料金

LONDON-PARIS		
Imperial Airways, British Airways & Air France		
	片 途	往 復
from London	£ 4-10-0	£ 7-10-0
Paris	Frs. 700	Frs. 1,125
LONDON-BERLIN (via Rotterdam and Amsterdam)		
K. L. M, D. L. H. & A. B. A.		
	片 途	往 復
from London	£ 10-10-0	£ 18-18-0
Berlin	RM. 140	RM. 252
PARIS-BERLIN (via Cologne)		
Air France & D. L. H.		
	片 途	往 復
from Paris	Frs. 1,350	Frs. 2,430
Berlin	RM. 110	RM. 198

(from Pradshaw's International Air Guide, July, 1939)

参 考 書 目 録

汽 車 時 間 表

- A. B. C. Time Table
- L. N. E. Railway Time Table
- L. M. S. Railway Time Table
- G. W. Railway Time Table
- Bradshaw's Time Table

歐 洲 大 陸 案 内

- Cook's Continental Time Table
- Bradshaw's Continental Guide
- Mitropa Kursbuch
- Southern Railway Continental Handbook
- L. N. E. Railway Continental Handbook
- 歐米漫遊の友 (東伯林中管旅行部發行)

飛 行 旅 行 案 内

- Bradshaw's International Air Guide

旅 館 案 内

- Hotels and Restaurants of the United Kingdom
- Gli Alberghi in Italia
- Les Prix des Hotels en France
- Guide to Swiss Hotels
- German Hotel Guide

倫敦より歐洲主要地に至る汽車賃

	一 等		二 等			
	£	s	d	£	s	d
LONDON-ANTWERP						
(Via Boulogne or Calais)...	4.	2.	1.	2.	19.	4.
* -ATHENS	18.	3.	7.	13.	2.	4.
* -BERLIN						
(Via Boulogne or Calais)...	10.	4.	7.	7.	4.	5.
* -BERNE						
(Via Boulogne or Calais)...	6.	7.	9.	4.	12.	10.
* -BRUSSELS (Via Ostend) ...	3.	17.	4.	2.	16.	0.
* -BUDAPEST (Via Calais) ...	10.	13.	1.	7.	13.	5.
* -COPENHAGEN						
(Via Ostend)	8.	3.	1.	5.	13.	7.
* -GENOA						
(Via Calais and Paris)	8.	5.	1.	5.	18.	4.
* -HAGUE, THE	3.	0.	2.	2.	7.	0.
* -HAMBURG (Via Ostend) ...	8.	11.	11.	5.	19.	7.
* -LYONS						
(Via Calais and Pais)	5.	16.	0.	4.	4.	8.
* -MADRID						
(Via Calais and Paris)						
* -MARSEILLES						
(Via Boulogne or Calais)...	7.	1.	0.	5.	2.	5.
* -NAPLES						
(Via Boulogne or Calais)...	12.	4.	2.	8.	11.	4.
* -PARIS (Via Calais)	3.	18.	2.	2.	17.	4.
* (Via Boulogne)	3.	11.	3.	2.	12.	10.
* (Via Dieppe or Havre)	2.	17.	6.	2.	7.	0.
* -PRAGUE (Via Calais)	8.	9.	11.	6.	1.	3.
* -ROME (Via Calais)	11.	9.	7.	8.	1.	8.
* -ROTTERDAM						
(Via Gravesend)	2.	17.	6.	2.	5.	0.
* -STOCKHOLM						
(Via Ostend)	11.	12.	10.	7.	11.	9.
* -VIENNA (Via Ostend)	12.	12.	5.	8.	13.	7.
* -WARSAW (Via Ostend)	8.	19.	8.	6.	7.	1.

(from the Southern Ry. Continental Handbook, Summer, 1939.)

歐洲大陸旅行案内 (附録)

- | | |
|---------------|------------------|
| 一、ナポリに上陸して | 九、馬耳塞より伯林へ |
| 二、ナポリより巴里へ | 十、馬耳塞よりマドリッドへ |
| 三、馬耳塞に上陸して | 十一、英蘭及蘇格蘭巡遊 |
| 四、馬耳塞より倫敦へ | 十二、愛蘭へ |
| 五、馬耳塞より巴里へ | 十三、ウエールス、英蘭西南各地へ |
| 六、巴里より倫敦へ | 十四、神都アテネ(アゼンス)観光 |
| 七、馬耳塞より羅馬へ | 十五、聖地巡禮 |
| 八、馬耳塞よりジュネーヴへ | |

一、ナポリに上陸して

ナポリは伊太利の古都、名勝地として有名なるのみならず、舊佛領當時南伊の首都であつたもので、人口八十四萬人を擁してゐます。且南伊の主要港で港灣施設も整ひ遠洋航路船の寄港するもの多く、日本郵船の歐洲定期船も往復航共此地に寄港して居ます。東南北の三方を丘陵山岳に圍繞せられたナポリ灣に臨み、東にヴェスビオ火山聳え、西にボジリポの丘陵連綿として、市街は其東南傾斜地にあります。

次に同市の著名な遊覽所を述べる事とします。

先づ船を下りて税關構内を出ますと、右にカルミネ寺の青光りするマヨリカ瓦で葺いた大鐘樓が見えます。之より寺町(Via Duomo)を経て進むと白色の大寺院がありますが、これはナポリ全市の守護神として一般に信仰されてゐる聖ゼンナロを祀つた聖ゼンナロ寺であります。其神體は聖者殉教の際流した血を本體としたもので著名なものであります。「フォーリヤ」廣場に出れば國立博物館があります。館内の階下には大理石及び青銅の名作が、太古より年代順に陳列され、「ファルネーセの猛牛」、ハーキユレーレス、プシーケの像等世界的逸品が多くあります。二階は繪畫、モザイクの類で、ボンペイの「踊れる牧羊神の家」より移したアレキサンダー大王奮戦の大モザイクの如き、其緻密な大理石の製作は實に驚歎に値します。三階にはボンペイ時代の器物調度品等の遺物が多く、且名高い「ボンペイの小青銅」の名作珍品が陳列されてあります。此の博物館は羅馬希臘文物の精華の集められてゐる點では他に比類なしと謂はれて居ります。

博物館を出ると羅馬街で、其先きはフェルヂナンドの廣場、此邊はナポリの中心地であります。此所に離宮となつてゐる佛領當時の王宮があつてドリヤ、アイオニヤ、コリントの三様形式の宮殿で頗る壯麗を極めたものであります。正面の大理石像はナポリ王朝の諸元首の像であります。前面は市場廣場と云ひ、圓柱を連ねた廻廊の中央に聖ポウロ寺があります。王宮に連接してサンカルロの善美を盡した王室劇場があつて、其宏大なる事、伊太利第一の稱があります。其の前側にガレリヤがあつて其内部は大理石造りで賣店多く、地下室には浴場、料理店、寄席等もあり土産物でも買ふには便利であります。其東には新城(Costello Nuovo)がありますが、之れは十三世紀にカロロ帝の築造にかゝり、今は古今の武器を集めた博物館になつてゐます。新城の背面は軍港で、港内に繋留されてゐるカラツチョコ號には有名なチビタ夫人の不良兒童感化事業が經營せられ、其成績良好なる點で世界の教育界を驚かして居ります。市の西方に其背景をなして高く聳えてゐるのはボームロの丘で、其東に嚴かなボームロ城があります。この地點より雄大なナポリ灣一帯の風景を賞する事が出来ます。其麓にサンマルチノ博物館があります。もと僧院であつたが、今は主として歴史的特に伊太利統一前後の參考資料が蒐集されてゐます。其中庭(Chiostro)は國寶となつてをり、また Belvedere の見晴臺はナポリ全景を一眸の中にをさめ得る景勝地であります。此先きボジリポの岡の初まる處

に民謡の神ビエチグロッタの聖母像があり、此の下を通ずる隧道は、羅馬時代の大詩人で仙術の奥儀に達したといはれるヴィルギリオ（英ヴァージル）が獨力で掘つたものと云ひ傳へられてゐます。この民謡神の祭禮は遠くナポリが羅馬から獨立した希臘植民地時代から傳へられてゐるもので、古代オリンピック祭の面影を残し、此祭禮から毎年新作の伊太利民謡が國內に擴まつて行くのであります。之より進むでコロリオ濱に出でボジリポ岬に向ふ處に繪の様な鳥がであります。此は羅馬時代シーザー暗殺の密議が行はれた處で、大暴王ネロの別荘のあつたと云ふ有名なニシダ島であります。

コロリオ濱より道を登つてボジリポの連丘に出ますが、其登つた處に大理石造りの見晴臺があります。此臺からはナポリ市街と市の背後にあるカマリドル高峯を望み、二十有餘の死火山と半死火山が連綿としてゐるところ、全く月界の表面を見るが如く、更に土地起伏甚だしき「炎の野」の一帶等實に天下の偉觀が展開されるのであります。更に西方に向つて遠くのびた半島が見えます。其先端は往昔羅馬の軍港であつた *Baia* であります。今や其一部は海底に沈下して終つてゐます。其左には三つの死火山より成るフロチダ島、神話に名高いイスキヤ島のエポメの頂きを遙に望む事が出来ます。

ボジリポよりナポリへの沿道は市街よりカンパニヤの平原、ソレントの半島一帯の繪の様な絶景を展望し得ますので、今更ながらナポリの美都たるを讚嘆させられます。此海岸にはナポリ王國の美女王ジョバンナが日夜淫樂に耽つて多くの男を犠牲にしたと云ふ、南歐の吉田御殿として知られてゐるドンナ・アンナの宮殿があります。此の先海濱に接する處に漁船の集つてゐる入江があります。これは民謡に名高いメルゼリリーナの漁村で、此よりヴェスビオを見渡した景色はナポリ劇の背景によく出る處であります。

程なく國立公園に出ますが、これは伊太利統一前より由緒深き公園で、其音楽堂でのオーケストラは伊太利全國に知られてゐます。また同處には臨海研究所があつて、其設備の完備せると圖書館の藏書の豊富なる事は全世界に知られてゐます。また公園に沿ふ海岸通りには海中の岩上に築かれた城があります。卵城 (*Castello dell'Ovo*) と言つ

て、詩人ヴィルギリオが作つた魔法の卵を吊してあつたと稱せられてゐます。

此れより王宮に出る通は懸崖波打際に沿ひ途中に海中奇巖の上に建てられた眼の守り神、聖ルチーヤの寺があります。此邊一帯をサンタ・ルチーヤと言つて、勇み肌の漁師が住んでゐます。此所で生れた者をルチーニと言つて、生粹のナポリツ兒だと自慢してゐます。

市の近郊五哩には紀元前よりの希臘羅馬の文化遺跡である有名なポンペイの死都があり、アンデルゼンの「即興詩人」により知られてゐる琅玕洞の奇景 (*Blue Grotto*) のあるカプリ島の遊覽、市に近いソレント半島廻り等も特に興味あるものであります。

二、ナポリより羅馬、トリノを経て巴里へ

(巴里迄千六十八哩。普通括弧内はナポリよりの哩數を示す。)

Caserta (二十二哩) 西曆一七五八年チャールス三世の築いた王宮で、宏壯な建物が重疊し、頗る華美壯麗を極め、ナポリのヴェルサイユの稱があります。

此の先に羅馬時代の凱旋門、圓戯場の遺跡で知られてゐる *Capua* の町があります。

Casino (七十哩) 驛より少しく先きに千七百呎の高所に立つ *Monte Casino* の僧院があります。五二九年聖ベネチクトの創建したもので、輪奐の美驚くばかりであります。其圖書館には稀觀の古文書が多く包蔵されてゐます。

Rocasecca (八十哩) 驛より *Avezzano* 線に乗換へ、十二哩に上り *Arpino* 驛に着きます。此東二哩は往昔の *Arpinum* であつて、海拔千四百七十呎の山岳地帯にあつて眺望頗る佳、マリウス・シセロの生誕地として著はれてゐます。

Roma (百六十二哩) は伊太利の首都で、羅馬帝政時代の首府として歐洲に於ける最も歴史に富む古都であることは周知の通りであります。チベル河に臨み、*St. Peter Cathedral* の宏壯なる殿堂、無限の價値ある美術の寶庫と稱せらるゝ *Vatican* の宮殿、無数の教會堂神殿があります。古羅馬の遺跡としては公議所及大演技場があつて、昔

日の盛観を物語つてゐます。Pincian Garden からの眺望はいと美しく、The Carso の大道は常に行人絡繹として雑踏して居ります。

羅馬から Pisa に行きますと其處には三個の奇觀、即ち斜塔、Cathedral 及洗禮場があります。

Genoa (四百七十七哩) は要塞を以て固められたる海港で、且北伊太利の主要港であります。千百年代より存在してゐる立派な Cathedral を初めとし、多數の歴史的な建築物、美しき公園があります。又造船所、鐵工所其他天鵝絨、マカロニ、機械類の製造が盛んであります。尙此地には不出世の伊太利の愛國政治家 Mazzini の遺骸が Campo Santo に葬られてあります。

Genoa から他線(九十五哩)により Milan に行けます。伊太利の富裕な産業都市で、また大鐵道及經濟上の中心地でもあります。全部白色の大理石にて建てられた大伽藍 Palazzo di Brera には優秀なる美術品を多く所藏し、Santa Maria delle Grazie の會堂には、かの Leonardo da Vinci の名作「最後の晚餐」が掲げてあります。尙此地は絹織物、天鵝絨、化學製品、機械類等の製作が盛んであります。

Torino (五百八十哩) は Piedmont の古都で、Dora Piparia 河と Po 河の合流點に在ります。肥沃なる Piedmont の平原に圍繞せられた同市街には頗る近代的施設多く、他の伊太利都市とは大にその趣を異にしてゐます。又市には古代名畫の豊富な Palazzo dell' Accademi Scienze の展覽場 (Pinacoteca) 埃及希臘及羅馬文化美術の精粹を蒐集した Museum of Antiquities があります。王宮は一六六〇年 Carlo Emanuele II の建設したもので、其 Royal Armoury には歴史上興味深き武器が陳列せられてゐます。Capella delo Santissimo Sudario はルネッサンス式の大寺院で、Savoy 大公家の菩提寺であります。高さ五百三十六呎と云ふ Antonella の古塔の頂上よりは Piedmont の平原を越えて遙かにアルプス一帯を望む壯觀が展開せられます。伊太利より巴里に至る最短徑路は Torino より Mont Cenis の大トンネルを通過し Modane, Culoz を經て巴里に入るものであります。

Dijon (巴里より百九十五哩) は佛國 Burgandy の首都で、葡萄酒製造の中心地として有名であり、且風光明媚の

地として知られてゐます。また著名な博物館があつて、其繪畫蒐集の點では巴里以外では佛國有數のものと云はれてゐます。Benigne の大キヤセドラルは一二八〇年に建てられたゴシック、ビザンチン折衷の建築物で、十三世紀ブルガンデー建築の大傑作として有名なものであります。

三、馬耳塞に上陸して

馬耳塞は佛國第一の開港場で、大きさ及び重要な點に於ては同國第二位の都會、而して地理的地位から見て世界屈指の旅行中心地であります。

同港には日本郵船其他の汽船が印度、支那、日本、濠洲、南米へ往復の途次寄港し、アルジェリヤ (Algeria)、チュニス (Tunis)、モロッコ (Morocco) 及び希臘 (Greece) へ絶えず便船があります。鐵道は P.L.M. (Paris-Lyons-Mediterranean) Railway 及びそれと連絡する諸線により西班牙、伊太利、瑞西、獨逸、英國等歐洲大陸各方面に迅速に且つ安樂に達する事が出來ます。馬耳塞は海外通商港として重要なものみならず、工業も亦盛んで大規模な石鹼工場、製糖工場あり、又同時に最も趣味に富める都市であります。時間に餘裕のない旅客は自動車を雇ふか或は電車を利用して、數時間内に市内の名所を巡覽する事が出來ます。船渠 (Dock)、輸送橋 (Transporter Bridge) は著名なものであります。

最も華麗な街路に La Canebière 及び Rue Noailles あり、樹木の立並んだ幅の廣い歩道に Prado と云ふ立派な道路があります。舊港の入口には St. Victor と云ふ馬耳塞にて最も古い教會堂があり、La Canebière の西端には取引所 (Bourse) があります。取引所前の小綺麗な街からノートルダム寺院 (Notre Dame de la Garde) へ行かれます。この寺院は馬耳塞第一の名所で、其の所在地なる丘陵の頂上から俯瞰すると、馬耳塞市の内外、港内全部の壯大なる景色が脚下に展開し、かのデューマの小説モント・クリスト (Monte Cristo) に描かれた有名なシャトウ・ド・デーブ (Chateau d'If) の孤島及び其の城壁が指呼の中に入ります。美術館 (Le Palais de Longchamp) は一八

六三年—一八六九年の建設にかゝり、多数の繪畫彫刻及び博物學の標本を蔵して居ります。Hotel de Ville は十七世紀時代の建築物、凱旋門 (L'Arc de Triomphe) は一八二五年は西班牙戦争を記念する爲めに建てられたものがあります。

四、馬耳塞より倫敦へ (カレール經由) (八百七十一哩)

馬耳塞からの鐵道徑路中最も良く知られ且つ好評なるは馬耳塞倫敦間の旅程であります。旅客中には途中諸所に下車をされる人があるかも知れませんが、兩地間を直行するとすれば、急行 The Calais-Mediterranean Express 列車で全旅程二十時間を要します。馬耳塞巴里間には日々数多の列車があり、途中 Avignon, Lyons 及び Dijon の各驛に停車します。而して旅客は巴里で左記倫敦行列車の何れかを撰擇すればよいのであります。

經由	所要時間	海峽航海時間
一、カレール及ドーバー經由	二八七哩	六時間五十分
二、ブローノン及フォクストーン經由	二五九哩	六時間五十分
三、ディエプ及ニユウヘン經由	二二四哩	七時間五十分
ポントアーズ經由	二四五哩	八時間
ルーアン經由	三三九哩	十三時間
四、ハーヴル及サザンプトン經由	三三九哩	七時間

尚(3)里 (Le Bourget) と倫敦 (Croydon 及 Heston) 相互間には日々二回の飛行便があり旅客を輸送して居ります。

五、馬耳塞より巴里へ (五三五哩、所要時間十二時間)

普通地名括弧内の数字は馬耳塞よりの哩数を示す。

馬耳塞から五十三哩、Arles には、非常によく保存せられた羅馬時代の遺物、闘場 (Roman Arena) があります。

Avignon (七十五哩) はこれ亦古都で、確かに見物する値ひが充分あります。當市は一三〇八年より一三七八年に至る迄、歴代法王 (Popes) の居住地でありました。Rhône 河上高く、巨大な城壁の聳立してゐるのはその居城 (Papal Palace) たりしところ、城牆は同時代に築かれたものであります。St. Bénezet が十三世紀に造つた橋は頗る風致を添へて居ります。

Tarascon は馬耳塞より僅かに二十三哩で、そこには Alphonse Daudet に依つて世に顯れたゴシック式 (Gothic) の城があります。

Orange には羅馬時代の建築物が二個遺つて居ります。即ち劇場及び華麗に裝飾せられた凱旋門 (Arc de Triomphe) があります。

Montelimar は城及び ^{ヌガール}Nougat と稱する美味なる菓子の製造を以て名高く、Valence には一種風變りな雅致ある寺院 (Cathedral) と多数の綺麗な古い家屋があります。

Vienne (百九十八哩) は繁華なる商工業地で、佛蘭西に於ける最も古い都市の一つで Caesar 時代の記録にも擧げられて居ります。市内 Place de Palais の中に、紀元四十四年頃建てられた Augustus 及び Livia の寺院 (Temple of Augustus and Livia) があります。當地には一七二二年に建設にかゝり、七千人以上の職工を使用して居る一製布工場があります。その他洗濯場、製紙場、銅鐵鑄造工場、硝子工場等多数あります。

Lyons (二百十八哩)、絹布類の首府と呼ばれてゐる同市は街路と云ひ埠頭と云ひ、何れも非常に立派で、建築物も新舊共に堂々たるものがあります。一六四六年に建設された Hotel de Ville (市廳) 及び Textile 博物館は比類なき立派なものであります。

次に酒類取引の中心地なる Macon Burgundy の舊都 Dijon (此處の舊王城 Palace of the Dukes は一三六六年の建設にかゝり、今は Hotel de Ville に隣り立派な油繪を蒐集す) と、そして輓近歐洲の大戦の思出多き Sens の舊都を過ぎると、汽車は Fontainebleau の森を通つて巴里に入るのであります。Fontainebleau には Royal Palace

在り、十六世紀の建設にて一覽の價値があります。

巴里(五百三十五哩)は言ふまでもなく佛蘭西の首府でセイヌ河の兩岸を占めて居ります。典雅にして然も壯麗な都會で、幅の廣い並木街、立派な商店及び歴史的な而して興味ある建物が澤山あります。寺院(Cathedral)の多くは美しいゴシック式の建物であります。其の他有名な建物としては、繪畫及彫刻を蒐めて世界的に著名な Louvre、奈翁の墳墓ある Invalides や Madeleine の教會堂及オペラ劇場などがあります。巴里はセイヌ河の河口より百二十四哩の地にあり、鐵道、河川、運河及街道の會合點となつて居ります。又八個の大きな鐵道の發着點あり、是等は皆外廻り線(Ceinture)及び地下鐵道に接続して居ります。

六、巴里より倫敦へ

(イ) 巴里より Calais 又は Boulogne 經由倫敦行。

北の線は古い佛蘭西の一州なる Picardie を通過します。此州には歐洲大戰を偲ばしむる幾多の場所があります。Amiens にはラスキン(Ruskin)に依つて非常に寫實的に記述された立派なゴシック式の寺院(一二〇年建設)及び織物の大工場があります。

Abbeville には二個の美しい教會堂、舊城壁及び珍らしい繪の様な家屋が多數あります。當地には毛織物、襪類及び敷物の製造が盛んに行はれて居ります。

Boulogne は演藝館のある氣持の良い健康地で、城壁を廻らした此の古都は捨て難い興味ある所であります。此處より程遠からぬ斷崖絶壁の上にナポレオンの記念碑があります。

Calais には大船渠があり又絹綢布及び機械製レースの製造を以て有名であります。Calais から Dover まで汽船にて二十二哩あります。

Dover は立派な港で要塞堅固なるノルマン城(Norman Castle)あり又海運業、製繩製帆業が盛んに行はれて居

ります。Boulogne から Folkestone 迄は汽船で三十哩であります。Folkestone は海岸にある氣持の良い町で、港もよし、大陸との貿易も盛大であります。此處には非常に古い教會堂があります。又此地は彼の血液循環の發見者たる Dr. Harvey の生地であります。Dover 又は Folkestone よりの鐵道は何れも英國ケント(Kent)州を通過します。Kent はホップ(hops)及び果實の産地として世界的の名聲を博して居ります。

Ashford には大製軌工場及び立派な塔のある教會堂があります。

Tonbridge には Medway 河に架けてある五個の石橋及古き Grammar School があります。又此處は陶器及刳物細工を以て知られて居ります。

(ロ) 巴里より Dieppe 及び Newhaven 經由倫敦行。

此の旅程には徑路が二通りあります。即ち一つは Rouen を經由するもので、同地には十三世紀に建設された壯麗なる教會堂あり、ジャンダークが千四百三十一年に焼殺された場所を印した石碑は市場にあります。

Rouen は綿布紡績の大中心地で、佛蘭西の Manchester と呼ばれて居ります。

他の線は Pontoise を經由するもので、之に依ると Rouen 經由よりも二十哩程近道になります。兩線共、果實の栽培盛んな殊に林檎や、林檎酒の名産地 Normandy 地方を通過します。

Dieppe には大規模のベーシン及び造船所があり、二百年來象牙細工の製造を以て名のある所であります。六十四哩の海峽を渡ると Newhaven に達します。Newhaven は大陸交通に對する良港です。

Lewes は重要な農産物の本場で立派な Norman Castle や古き修道院の舊跡や有名なる殉難者記念碑(Martyrs Memorial)があります。

此の線が通過する英國 Sussex 州及び Surrey 州は“Downs”として知られて居ります。草やら「びーず」やらが一面に繁茂し、羊及家畜を産するを以て有名であります。

Redhill は鐵道の大中心地で、玉蜀黍及家畜の市場あり、附近には銀砂と晒布土の採掘坑があり盛んに發掘されて

居ります。

(ハ) 巴黎より Le Havre 及び Southampton 經由倫敦行。

此の線は Rouen を通り、美しいセイヌの溪谷に沿ふて、然る後 Le Havre に至る徑路であります。六、七、八及び九月の間は汽船が隔日に Rouen と Le Havre 間を通ひ、潮の都合にも依りますが、五時間乃至五時間半で兩地間を航海します。兩岸の美しい景色を眺めながら船で通るのも愉快であります。

Le Havre は佛蘭西の重要な海港で立派な船渠あり、又ヨット遊びには絶好の場所であります。Le Havre から Southampton 迄の距離は海路百五哩であります。Southampton は英國の重要な港で、廣大な船渠があり、世界各方面より來航する汽船の寄港地であります。古代城壁及城門の遺跡殊に障壁門 (Bargate) 其他數個の古い建築、ノルマン時代の教會堂や歴史上又文學上の連想を種々起さしめるもの尠からず、就中カニエート王及び Dr. Watts 等に關する事蹟は著名であります。

此の地から鐵道線路は英國 Hampshire 州及び Surrey 州を通ります。

Hampshire は良い小麦を産するので有名であります。

Winchester はもと英國の首府であつて、一〇七九年に建てられた寺院カトリックや、一三八七年からある公立學校 (英國に於ける最も古いもの) や、所謂 Arthur 王とその騎士が用ゐた「圓卓」(Round Table of King Arthur and His Knights) が残つてゐる大廣間 (Great Hall of the Castle) や King Alfred の像や小説家 Anthony Trollope が書いた St. Cross の古病院など、舊跡の多い都市であります。

Basingstoke には古い寺院の遺跡は僅か二三ヶ所あるのみですが、布類及農業機械類の取引が盛大であります。倫敦 (London) は歐洲都市中最も興味あるものゝ一つであると共に商業、財政及海運業の世界的中心地で又文學及歴史上にも面白い所であります。公の建物の中で最も顯著なるものはウエストミンスター寺院 (Westminster Abbey)、セントポール寺院 (St. Paul's Cathedral)、議事堂 (Houses of Parliament)、ロンドン塔 (The Tower

of London)、國立美術館 (The National Gallery) 及大英博物館 (British Museum) 等であります。倫敦は十五の大鐵道の發着點であり、之等は皆俗に "Tubes" と呼ばれる地下鐵道に接続して居ります。テムズ河の下流 Tisbury 迄も擴がつてゐる廣大な船渠は確に見學に値するものであります。

海外よりの旅客は倫敦を振り出しに England, Scotland, Ireland, Wales の各方面へ旅行し、各所舊跡を探り、商工業の中心地、例へば Manchester (木綿)、Leeds (リンネル及毛織)、Macclesfield (絹)、Stafford (陶器) 等を訪ねることが出来ます。

又倫敦は船車聯絡の世界的中心で北部歐洲瑞典、諾威、丁抹は勿論、南北米兩大陸、東洋濠洲への交通も至便であります。

七、馬耳塞より羅馬へ (五五八哩)

此線は普通地中海の沿岸に沿ふて馬耳塞よりゼノア (Genoa) に到るもので、此距離二百五十五哩、途中 Côte d'Azur 又は Riviera として知られたる佛蘭西及伊太利海岸遊覽地の大部分を通過します。

Toulon (四十一哩半) は良港にして且要塞堅固なる軍港です。港の埠頭 (Quai du Port) の端に一八四〇年に St. Hélène から持つて來たナポレオンの遺骸を埋めたる "Belle-Poule" があります。

旅客は Toulon にて汽車を乗換へれば Riviera に於ける最南驛 Hyeres に行くことが出来ます。

Cannes (百二十哩半) は著名な健康地にして遊覽地を兼ね香水及び石鹼の製造工場があります。

Cannes より北方十二哩の地にある Grasse の住民は全部香水の製造、果實及草花の貯藏業に従事して居ります。Cannes からの道程六哩を距てた Vallauris は以前より "Mar-mit" 即ち土器のスチュー鍋の製造で名高い所であります。此の鍋は非常に強力な熱に對しても龜裂を生じないさうです。

Cannes 及び Nice 間の海岸に於ける特色ある所は Porphyry (班石岩) が眞紅の色に輝いてゐる Esterel であ

ります。

Nice (百四十哩) は美しい町として知られ散歩道 Promenade des Anglais Place Massena 及び華麗な店舗の立並ぶガルド街 (Avenue de la Garde) 等は主なるものです。近くには大理石山があり、Cagnes には鴉鳥の飼育場があります。輸出貿易も亦盛んであります。

Monaco (百四十八哩) は「モナコ」公國の首府で Monte Carlo を含み、高さ百九十五呎の海岸の岩石の上に地

を占め、其上に王宮及 St. Nicholas 寺院があります。Monte Carlo は賭博場を以て有名であります。

Mentone (百五十五哩) は評判の遊覽地で、巴旦杏及オリヴ油の取引極めて盛んであります。劇場及ゴルフ場、又美景を以て知られた Cape Martin に到る立派な歩道があります。東方には St. Louis の橋 (伊太利の國境) があり、これに接近して有史以前の骨が發掘された大洞窟があります。

Vinimille (百六十一哩) は國境にある停車場です。

Bordighera (百六十五哩) は數多の珍しい狹隘な市街及奇妙なる門があり、そしてオリヴの森及び棕櫚の林を以て知られて居ります。

San Remo に於ける古町 (百七十一哩) は繪の様に綺麗で、山にオリヴ、密柑、無花果、及棕櫚で蔽はれて居ります。

Genoa (二百五十五哩) は要塞を以て固められたる海港で、優秀なる灣頭に位し、一一一〇年からの立派な寺院を初めとして多數の大建築物及び美しき公園があります。市内には船渠、造船所及び鐵工場あり又天鵞絨、マカロニ及び機械類の製造が盛んです。此地の産なる伊太利の愛國者 Mazzini は Campo Santo に埋葬されて居ります。

Genoa から Pisa に行きますと、其處には三個の奇觀、即ち斜塔 (Leaning Tower……百七十八呎半) Cathedral 及び洗禮場 (Baptistry) があります。

伊太利の首府 Roma (五五八哩) は Tiber 河畔にありて結構壯大なる St. Peter 寺院、無限の價值ある美術の寶庫

たる Vatican の宮殿等無數の寺院があります。古羅馬遺跡には Forum (公議所) 及び Colosseum (大演技場) の廢墟があつて昔日の文化の跡を物語つて居ります。Pincian Gardens からの眺望はいと美はしく、「The Corso」の大道は常に行人絡繹として雑踏して居ります。

Genoa から他線 (九十三哩) の Milan に行かれます。同市は伊太利に於ける最も富裕な工業都市で、大鐵道及經濟上の中心であります。Cathedral は全部白色の大理石にて造られた大伽藍で Palazzo di Brera には優秀な美術品を多く包蔵して居ります。Santa Maria delle Grazie の教會堂には Leonardo da Vinci の畫いた有名な繪畫「最後の晚餐」(The Last Supper) があります。尙當地は絹織業、機械類、天鵞絨及び化學藥品等の製造も盛んであります。

Milan から Venice 迄は Verona 經由で百六十五哩あります。

八、馬耳塞よりジュネーヴへ (三百二十二哩)

馬耳塞から瑞西への最上の旅程は先づ Lyons に行き、其の後 Culoz 及び Bellegarde (國境の停車場) を經て Genève に至るものであります (Lyons より四時間)。

Genève は繁華な工業都市で Calvin を以て知られたる新教徒の寺院 Protestant Cathedral 及大學があります。

尙當市は時計、樂器其他精密機械の製造取引が盛んであります。

Lausanne (三百六十哩) には非常に優雅な圖書館があり、而して羊毛、皮革及び紙類の大工場があります。

Berne (四百五十九哩) は瑞西政府の所在地で古い都市でありまして、珍らしい噴泉やら、奇妙な拱廊附の街路やら、大學、寺院及び國會議事堂 (Federal Palace) など見るべき價値のあるものが多數あります。

Bale (四百八十九哩) Genève より四時間餘りで行くことが出来ます。此地は重要な鐵道の接續地で、此處からは歐洲大陸の殆んど如何なる方面へでも達することが出来ます。當市には寺院及び大學があり、絹リボンの製造が非

常に盛んであります。

九、馬耳塞より伯林へ (千五十六哩)

馬耳塞から獨逸に赴かるゝ旅客は Lyons 及び Genève を經て Bale に到り、更に Carlsruhe を經由して伯林に著くのがよいと思はれます。Bale からは獨逸の各方面へ例へば世界的に有名なゴシック式寺院 (Gothic Cathedral) 及び香水オード・コロン (Eau de Cologne) の産地 Cologne 或は書籍及び出版物の大中心地たる Leipzig 等へ容易に到達することが出来ます。

Carlsruhe は多くの重要な製造品—寶石類、敷物類、陶器類等を産出する立派な都市で、その壯大なる古城は人目を惹きます。

獨逸に於て最も綺麗な都市の一つである Heidelberg には、彼の名高い「Heidelberg の大樽」(Great Tun) のある荒廢して尙優雅な城址があります。此の地にある大學は世界的に名聲を博して居ります。

Frankfurt は商工業の大中心地で、立派な塔のある寺院、Senkenberg 博物館、Teutonic Order の家及び以前宮殿であつた Romer 等は著名な建物であります。

獨逸の首府伯林には壯大にして現代的な幾多の寺院があります。Unter den Linden は立派な樹木の立並んだ廣闊な街路であります。其の外當市には一四三三年に築いた宮城 (Royal Palace)、劇場、Brandenburg 門、大學、St. Hedwig の教會堂及び美術館 (Art Galleries) 等見るべきものが枚擧に遑ありません。尙當地は同時に重要な工業都市で機械、陶器及び紙等を多量に産出します。

十、馬耳塞より西班牙マドリードへ (三百二十哩)

馬耳塞を後にして汽車は牡蠣及びアンチョーヴィイ (Anchovies) を以て有名なる Cette 及び非常に優良な赤葡萄酒

及び蜂蜜を以て知られたる Narbonne を過ぎて Cebère にて佛蘭西の國境に達し、そして Porthou (西班牙國境) より西班牙國に入るのであります。

Porthou から百八哩にして、旅客は西班牙に於ける最も重要な貿易港にして又商工業都市なる Barcelona に著きます。

Barcelona にはロロンパス (Christopher Columbus) の偉業を記念する高柱碑、寺院及び大學等立派な建築物多くその劇場は歐洲に於ても最大と稱せられる處のもので Rambla の並木街路は市中でも最も華美な大通であります。尙當市には木綿其他織物の大工場があります。

Saragossa は極めて由來の古い町で、斜塔 (Leaning Tower)、寺院及び有名な大學及び大織物工場があります。Saragossa の乙女 (Maid of Saragossa) は詩人 Southey 及び Byron に依つて詠まれて居ります。

Madrid は西班牙の首府で立派な建物が多くありますが、就中、寺院、宮殿、大學、國立圖書館、造兵廠、Prado 美術館等著名であります。煙草、毛氈及び其他の製造工業が行はれて居ります。又歩道は常に華かに活氣に満ちて居ります。

以上掲げましたのは馬耳塞よりの比較的重要な旅程でありますが、旅客は Bale を經由すれば Brussels (白耳義) Rotterdam (和蘭) 及び歐洲の如何なる方面へも容易に到達することが出来ます。

時間に餘裕のある方は佛國 Nice と同國 Evian-Jes-Bains の間を P. L. M. (Paris-Lyons-Mediterranean) 鐵道會社の經營する乗合自動車を利用し、アルプス路 (Route des Alpes) をとり、アルプス山脈の中心を横ぎり又は佛國 Biarritz と Cebère との間を Midi Railway 會社經營の自動車便によりピレネー山脈 (Route des Pyrénées) を經由、ピレネー山脈を横斷することも一興かと思はれます。

十一、倫敦よりリヴァプール、マンチエスター、英蘭湖漕地帯に到り、蘇格蘭南部及ニューカッスルへの遊覽

リヴァプール (倫敦より約九十五哩)

倫敦からリヴァプールへの鐵道は五會社の經營線路がありますが、London & North Western Railway により直行するのが最も普通で、且つ好都合であります。

リヴァプールはマーセー河の北岸にあつてパーケンヘッドと相對し、人口八十六萬、英國第二の主要貿易港であります。特に其輸出額の多い事は英國の首位を占め、世界的な大海港であります。従て其港灣施設も完備し、一般汽船の繫留地域はマーセー河畔約七哩に亘り、船渠、岸壁等約七十有餘に及んでゐます。河底を通づる Mersey Tunnel は八百萬磅の巨費を以て建設せられ、一九三四年先帝ジョージ五世により親しく開通せられたものであります。南北兩米大陸、地中海、其他世界各地との航路開け、キユナード・ホワイト・スター、加奈陀太平洋其他の一流會社船寄港し、日本郵船會社リヴァプール線(貨物船)も此地を終點としてゐます。

デール街には一七五四年の建築になる壯大なコリント式圓天井の市會堂があり、チセバル街には歐洲に於ける代表的取引所があります。ライム街中央停車場の先きに H. Helm の設計による希臘羅馬式の大寺院聖ジョージ・ホールがありまして、東西にはコリント式の柱廊があります。前庭に巨大なる獅子の像及プリンス・アルバート馬上の像が立つてゐます。セント・ニコラスの會堂は十一世紀の創設にかゝり、往時セント・ニコラスが其僧正であつたので有名であります。ブラウン無料圖書館には博物館もあつて博物學の參考品、古代中世の美術品の蒐集多く、又一八七七年ウォーカー卿の建てたウォーカー・カース美術館は繪畫の名作品目の豊富なる點に於て英國有數のものであります。

マンチエスター (リヴァプールより三十一哩)

リヴァプールの東北、マーセー河支流イルウエル河の沿岸に位してゐます。人口七十七萬、英國四大工業地の一つで、織物業特に綿織物の中心地であります。此邊一帯人口稠密の程度、世界第一と稱せられ、従つて如何に其工業の繁盛なるかを窺ふ事が出来ます。且マーセー河と同市とを連絡するマンチエスター運河は其工費千六百萬磅を費したもので、今日同市をして英國主要港たらしめたものは實にこの運河の開通がその主因となつて居ります。ロンドンロード、ピカデリー、マーケット街には大建築櫛比し商業交通の中心であります。マーケット街の取引所は古典的な大屋であつて、コリント式柱廊を有し、且つ百八十呎の鐘樓が高く聳えてゐます。キャセドラルは一四二二年創建されたもので、其内陣は金色燦然目を眩するばかり、また座席等は一五〇〇年代の精巧なる彫刻を施してあり、實に壯麗を極めたものであります。マンチエスター大學として知られてゐるジョン・ウオーレンの建設したウオーレン大學の附屬博物館所藏の古代埃及の藝術品は世に聞えてをります。ジョン・リーランド圖書館には主として一五〇〇年以前の古文書多く、殊にベニス印刷者 Aldus Manutius の出版物を集めた Aldine Room 及 Bible Room は世に名高いものであります。市立美術館には近世の繪畫、陶器、青銅作品の粹が蒐集され、十七世紀乃至十九世紀に亘る英國派、パーピゾン派及プレ・ラファエル派の名作が多いのであります。尙此處に所藏さるゝ水彩畫の豊富にして其價值大なるものゝある點で、同市のホワイトウオー・ス・インスティテュートと共に英國に於ける此種研究の中心となつてゐます。

ウインダメヤ湖 (マンチエスターより八十七哩)

英蘭北部の湖水地帯にある湖水で、その地域はウエストモールランド、カンバーランド、及ランカシャの北部に亘り西部は愛蘭海及モンカンベ灣に臨み、其山容の壯麗と湖水の美とを以て知られてゐるものであります。山岳起伏せる

間十六個の湖が散在し、眞に山紫水明の地で遊覽者の絶えない所であります。ウインダメヤ湖は長さ十哩幅三分の一哩乃至一哩のもので、特に其風光明媚なるを以て人口に膾炙されてゐます。ウインダメヤ湖はオクゼンホルム(Oxenholm)から更に枝線に乗換へ、十哩にして到るもので、此所から二哩にして湖岸ボウネス村に着きます。其背面にある丘陵よりは湖水一帯を俯瞰するを得て、湖上の風光を充分觀賞する事が出来ます。

湖上には遊覽船があつて約二時間半で一週出來ます。先づ兩岸緑滴る樹木を望み群がる山鳥の間を縫ふて進めばスコット、ウオズウオス、サウセーの會遊地として知られてゐる Storrs Hall Hotel が見晴臺の上に展開し、Belle Isle の北、湖水の中央に出れば相連る連峯の山色湖面に反映し、天下の美觀を呈します。Calgarth の森林は長く湖水にのびて Plygarth の幽谷を成し、Safel, Bowfell の頂き其西北に聳え、また Wary の古城を遙かに望む事が出来ます。湖水の北端は Bothay の峽谷で、Bothay 河口は Pulwyke 灣をなし、此邊ホテルがありますから此所で小憩する便宜もあります。

ケジツク (リヴァプールより百十八哩)

ウインダメヤ湖の北 Derwent 湖畔にある町で、ボウネスより自動車便があります。山岳重疊たる間 Derwent 湖をひかへた幽邃の地であります。其 Greta Hall はシェリー、サウセーの住んでゐた所で有名なるものであります。近郊遊覽者の眼をひく景勝の地多く、東北約一哩の湖岸に Friar's Crag と云ふ巖があつて、此より一帯湖上の美觀は言語に絶し、ラスキンが英國第一なりと歎賞したと傳へられてゐます。又 Penrith (一哩半)には世に Druidical Circle と稱せられる石器時代の遺跡がありますが、石敷三十八を以て、約百呎四面の區域を限つて居ります。

カーライル (マンチエスターより百八十哩)

古代から存在した町で、往昔羅馬軍の駐屯してゐた事もあり、其後 Cumbria 王朝の所在地ともなつたことがあ

ります。西暦九百年後丁抹人に襲はれて荒廢に歸し、更に英蘭と蘇格蘭の合併せらるゝ迄は其境界線の爲め屢兵火の巷となりました。キャセドラルはノルマン式建築で本堂だけが残存し、之に英國古代の塔が附屬してゐます。東側フレイヤン式の美しい窓、及び其上部にある繪模様硝子の硝子はリチャード二世當時のものを配し比類稀なるものであります。尙塔内には Percy 僧正の遺物が多く保存されてあります。古城は Wm. Rufus の築城したもので Longside の戦争後、メリー女王の幽閉された所であります。

グラスゴー (カーライルより百二哩)

グラスゴーはクライド河畔にあり人口百八萬、蘇格蘭の大都會で且主要貿易港であります。クライド河畔に沿ふて船渠、造船所多く、また機械、鐵工業の盛んな所でありますが、特に其優秀なる造船業は世界に喧傳されてゐます。十二世紀の建造にかゝるキャセドラルは市内景勝の地にあつてスコットの "Rob Roy" にも描寫せられた名高いもので、特に地下の聖堂の如きは實に善美を極めてゐます。これに沿ふ丘陵は風致に富んだ墓地で John Knox の記念圓柱像があります。ジョージ・スクウエアは官衙諸會社軒をつらね、ヴェクトリヤ女王を初めスコット、バーンズ、ピット、リヴィングストン等英國名士詩人の記念像が多くあります。

クライド河支流ケルヴィン河口に沿ふてウエストエンド・パークがあります。風光絶佳の地で Paxton の追想詩 "Kelvine Grove" により世に知られてゐます。其對岸の丘上に列んでゐる長方形の建物がグラスゴー大學で、前期英國派建築として蘇格蘭第一と云はれてゐます。美術館は大學と相對し、フレミツシユ、ダツチ、ベネチアン派の名作が多く蒐集されてゐます。近郊の遊覽地としてはハミルトン宮殿ボスウエル古城があります。ハミルトンはグラスゴーの南十一哩、エボン河とクライド河の合流點で、避暑地として知られてゐます。同宮殿は往時ハミルトン公の居城たりしもので結構頗る優雅であります。ボスウエルは之から四哩で、中途ボスウエルの橋があります。一六七九年モンマス公の率ゐた王軍と同盟軍とが血戦した古戰場であります。ボスウエル城は往時メリー女王の夫君ボスウエルの

居城で、一帯の風光と古城との對照は全く一幅の繪畫の如く、蘇格蘭の民謡によく引用されるところであります。

エヂンバラ

(グラスゴーより 四十六哩)
倫敦より 三百九十二哩)

蘇格蘭の舊首府で英國のみならず歐洲切つての浪漫的な典雅な古都の一で、人口四十四萬、出版業が甚だ盛んであります。美しい丘陵多く、其市街と自然の環境とがよく調和し、如何にも感じのよい風雅な都會であります。カルトンの丘に登れば市を一眸のもとにをさめ、更に高さ四百五十呎のネルソン記念館からは一層の遠望が出来ます。此所には國立記念館を初め Dugald Steward 其他バーンズの記念館があります。市の中央に城があつて眺望絶佳、舊蘇格蘭王朝の寶物が多く保存され、メリー女王の部屋等も存してゐますが、此城はまたジェームス六世生誕の處として有名であります。市の東部には舊蘇格蘭の王宮であつたホーリールド宮殿(Holyrood Palace)があります。茲には Darnley 侯の部屋、メリー女王の居間等があつて、この女王の居間は往時 Rizzio が暗殺せられた處であります。また其美術館には舊王朝時代の思出を語る多くの遺物があります。Chapel Royal は十二世紀の初め、僧院として建てられたものでありますが、古ヘチャールス一世の戴冠式がこゝで行はれ、またダヴィッド一世ジェームス二世、同五世其他王妃王族の墳墓があるので知られてゐます。王宮の先きの Kings Park の頂は八百二十二呎の見晴臺で Arthur's Seat と稱し、市の近郊は勿論、西南ペンントランドの丘を一眸にをさめ、遂に其北に連綿たる山脈を望むた下の絶景が展開されます。

市の中央プリンセス街は壯麗な建物多く市の誇となつてゐます。即ち East Princess St. Garden には壯大なシックス式のスコット記念館、リヴィングストン、アダム・ブラック、ジョン・ウイリソン等の記念像があり、West Princess St. Garden には塑像陳列館を以て有名な王室學會(Royal Institute) 繪畫の蒐集を以て知られてゐる國立美術館があつて、此等は何れも蘇格蘭に於て有数なものであります。Greyhairs Church にはロバートソン、ラムゼー、エリオット其他蘇格蘭名士の墳墓があり、尙此所は往昔ボスウエル・ブリッチの血戰當時、其捕虜千二百人が收容せられて憤恨の涙に咽んだ舊跡であります。

同市には此外、聖メリー・カセドラル、クキン・マガレット・チャペル大學、博物館、スコット、ジョン・ノックスの舊邸其他見るべきものが甚だ多いのであります。

ニューカッスル

(エヂンバラより 百二十九哩)
倫敦より 二百八十四哩)

タイン河口から九哩の地にあつて、人口二十八萬、英國東岸有数の石炭輸出港であります。此地一帯炭坑多く、且つ汽機機關の製作、造船業者多く、鐵工業の繁盛なる處であります。往昔羅馬人の創設した町で、サクソン人時代には僧院多く Monk Chester と稱せられてゐましたが、ウイリヤム大王の子ロバート・カルソスが城塞を築いてからニューカッスルと呼ぶ様になりました。ネヴィール街中央停車場にはスチヴンソン最初の製作に係る機關車が陳列せられてゐます。其前面にはセントメリ・羅馬カトリック教の寺院があつて、實に壯麗な近代の大伽藍であります。市會堂の右はセント・ニコラスの會堂で燈籠の美しい塔があり、其堂内の結構は壯麗な近代の大伽藍であります。此先きに Black Gate と稱する往時の城門の遺跡がありまして、其上部には古代の遺物其他美術品等が陳列されてゐます。城(Castle) はロバート・カルソスの築いたもので、今は櫓のみが残存してゐますが、其上部は百呎餘の塔となつて居り其高き頂きは市の美觀となつてゐます。階下はノルマン式の華麗な禮拜堂で、其他大廣間等も實に贅を盡したものであります。タイン河上に架したる High Level Bridge はスチヴンソンの設計にかゝり、彼の技術の精華を示してゐるもので、同市の誇とする所であります。水面よりの高さ百十二呎、橋上には鐵道線路も通つてゐます。

市の近郊には有名な羅馬人の城壁(Roman Wall)があります。此れは西暦一二〇年にハードリアン帝、また二一一年にセヴェラス帝が築造したもので、英蘭の西、ソルウェー河畔ボウネスより、東タイン河畔ウォールセント迄約七十三哩に亘つてゐます。高さ二十呎厚さ八呎の玄武岩の壁で、約一哩毎に要塞があり、其間見張用の小塔があります。此等の遺跡につき特に見るべきものは Chollerford, Housesteads 及び Shiel 等があります。

十二、愛蘭へ

愛蘭へは蘇格蘭グラスゴーよりベルファストへ、又英蘭よりはリヴァプールよりダブリンへ、汽船便に據るのを最も便利とします。

ベルファスト

愛蘭東北ウルスター州の首都で、ラガン河口に面した主要港であります。人口四十三萬。此地方は麻織業が盛んでリンネル工業の中心となつてゐます。市は近代的の都會でローヤル・アベニューには主要なる建築物多く、圖書館、博物館、美術館等があつて、其博物館には古代の参考品、石器時代の遺物等が多く陳列してあります。市會堂はブルンメル・トーマスの設計に係る規模宏大なもので、前庭には南阿戰爭記念館、ヴキクトリヤ女王の彫像が立つてゐます。市の中心をなしてゐるものはドネガル、ヨーク、ノース、ハイ街等で、ドネガル街には有名なる *Linen Hall* 裁判所、ウルスター銀行、キャンベル大學及クィンズ大學等があります。尙新教の大會堂があつて、其西側には十字形記念碑、其中央には百七十五呎の高塔が聳えてゐます。此外古典的なセント・ジョージ・クックの記念館、近代的ゴシック建築のセント・ジェームズ及セント・ピーター・カセドラル等があります。

市の近郊は歴史的遺跡多く、其東ベルファストの入江 (*Belfast Lough*) に沿ふ丘陵の眺望は絶佳にして、恰かも繪の如く、富豪の邸宅別荘等相次ぎ、其 *White Abbey*, *White House* より入江の東端 *Holywood* に至る間は、實に風光明媚の地であります。丘陵の先き *Cave Hill*, *Squire's Hill* には多數の洞窟があつて古代の武器が多く発見されます。其麓絶壁に沿ふ邊りは、往昔 *Ards* の蠻族と愛蘭人との古戦場の跡であります。尙近郊 *Newtonbreda* はラガン河口に沿ひ *Con O'Neill* の宮殿があります。此れはエリザベス女王時代、セプト族が其使臣モンテジョイの爲め撲滅せしめられた處として知られてゐます。

ダブリン (ベルファストより百十二哩)

愛蘭の首府でダブリン灣に注ぐリッフェー河の兩岸に跨り、人口三十二萬、愛蘭の主要港であります。尙リッフェー河岸一帯の地は、豊富な石灰石の包藏地として知られてゐます。

汽船は主として河の北岸ノースウオール・キーに繋留されますが、市街は河の兩岸に互り形成されてゐて、其間橋梁多く、その中最も有名なものは *O'Connell Bridge* で、サックビル、グレート・ブランドズウキックの兩街路を連絡してゐます。サックビル街には一八〇〇年代建設のアイオニヤ式柱廊のある有名な郵便局の建物があります。ヘンリー街には高さ百三十四呎を有するドリアン式の圓柱上にネルソン將軍の記念像が立つてゐます。ホワイトウオース、リッチモンド橋の間には裁判所 (*Four Courts*) がありますが、此は素々一七八〇年ドミニカン派僧院として建てられたもので、莊大なる法廷、圖書館、警官集会所等の附屬する大建築であります。

河の下流は海運業の中心となつてゐて、此所に其美觀と規模宏大なるを以て市の誇となつてゐる税關があります。四個の通路は河岸に沿ひ、ポートランド石又は花崗石を敷詰め、中央圓天井の本館頂上には「希望」の像が高く聳えてゐます。リッフェー河南岸には建築上参考となるべき建物多く、十三世紀創設のダブリン城が景勝の地に建つてゐます。クライストチャーチ・カセドラルは一〇三〇年の建造にかゝり、其後改築されたものであります。内部の構造、裝飾善美を極め、特に聖壇にて使用の祈禱書は愛蘭で英語を使用した最初のものとして知られてゐます。聖パトリック・カセドラルは聖パトリック創設にかゝり、スキフト及ステラの記念像があつて、其圖書館には神學上の古文書の蒐集が多くあります。ツリニチー大學は十四世紀よりある古いもので、圖書館、博物館には學術上、藝術上の参考品豊富にして、特に其食堂は偉人名士の肖像畫が掲げられてゐるので有名であります。

近郊ハウス村 (約九哩) の丘上には古城修道院の遺跡があり、其岬の一周は斷崖絶壁の間を縫ふて進むもので、其絶景は永く忘る事の出来ないものがあります。

十三、維斯、英蘭西南各地

スワンシー

プリストル・チャネルの北スワンシー灣に入るタワ河口にあつて人口十六萬、維斯の主要港であります。同市は炭坑地帯に近く、市の圓周十五哩に互り數百の炭坑があります。製銅事業頗る繁盛を極め、又製鐵業、ティンプレート、亜鉛板等の製作も盛んであります。特にティン・プレートの如きは、英國全産額の三分の二に達すると云はれてゐます。

同市では其製銅所の壯觀を見學する事は是非とも必要と思はれますが、夜間溶鑪から溶鑪の噴出する狀景の如きは實に壯絶を極めてをります。市の西南五哩の地に Mumbles の町があります。沿道白砂青松の間を進むと、この有名な海水浴場に達します。これより南方の半島 Worn's Head は絶壁の上にあり、其風光絶佳なるを以て知られてゐます。

カーヂフ (倫敦より百五十三哩)

プリストル・チャネルの北タワ河口より二哩の地にあつて、人口二十二萬、ウエールスの大都會、石炭の輸出港として世界に其名を知られてゐます。街路の整然たる事は、英國の都會中一頭地を抜いてゐます。メリー街には五個のベーションあり、其他棧橋、岸壁等延長七哩に及び、其施設も完備し、最新式のもものが採用されてゐます。カーヂフ城は十一世紀に築造せられたもので、饗宴室の如きは頗る壯觀を極め、其壁畫の如き亦古城の歴史を語る名作が多いのであります。尙此城は往昔ロバート・カルソスが三十年間圜の人となつてゐた所であります。特にソフィヤ公園より此城を望む美觀は實に言語に絶するものがあります。

城の北にはキャセー公園があり、其西には Cardiff Technical Institute, Glamorgan Country Hall, ウエールス

大學、其東には二百呎の高塔を有する市公會堂及ウエールスの歴史を飾る偉人名士の記念像が列んでゐます。市の南方四哩 Penarth があります。此所には Turner's House があつて水彩畫、油繪、陶器が多く蒐集され、Turner, Rossetti, Whistler 等の名作が陳列されてゐます。其他 Landaff (西南二哩) のカセドラルはウエールス有數のもので、其内部は結構裝飾燦然たるものあり、特に聖母禮拜堂と聖殿との間にあるノルマン式の門及び僧院は比類稀れなるもので、一見の價値があります。

プリストル

(倫敦より二百十八哩)
リヴァプールより百八十四哩)

プリストル・チャネルより約七哩、エボン、フローム兩河の合流點にあつて、人口四十萬、古來よりの都市で、英蘭西部の主要港であります。優秀なる船渠があり、港灣施設も整ひ、地形上海陸連絡に便利な爲め、物資の輸送に甚だ有利な地位を占めてゐます。

同市のカセドラルは十二世紀中、オーガスチン派僧院として建てられたものであります。中央本堂は高き圓蓋の建物で、百廿七呎の高塔を有し、其合唱隊席を初め輪奐の美を極めたものであります。聖母禮拜堂も亦華麗なもので、其東向の Jesse Window (基督の系圖を描いた飾り窓) は十四世紀のステインド・グラスを用ひた稀に見る名作であります。其他に名士、大僧正の記念像があつて、中にも桂冠詩人サウセイ、バトラー大僧上等が最も有名であります。

St. Mary Redcliffe は十三世紀垂直式建築時代 (Perpendicular Period) 建築の好標本で、エリザベス女王が英國最善最美の寺院と歎賞せられたと云はれてゐます。其玄關車寄及二百八十五呎の高塔は人目を驚かすものがあります。其他 Mayor's Chapel, Temple Church, St. John's Church 等幾多見るべき寺院があります。市の中央部は近代の建築物多く、市立博物館、美術館及プリストル大學があります。市の北西には Clifton の丘があつて頗る景勝の地であります。其西部、エボン河の流れが追つて兩岸に岩石屹立し、恰も溪谷の狀を呈してゐる處が、St. Vin

-cent's Rocks と呼ばれる所で此の溪谷、水面から二百五十呎の高い所に長さ七百呎もある有名なる Suspension Bridge (吊橋) が架せられてあります。

サザムプトン (倫敦より七十八哩)

ハムプシヤの都會で、東イチェン河、西テスト河の間に介在する人口十八萬、英國著名の港であります。港内廣く水深く、且つ地勢上二回潮の港灣で、最初の滿潮時と第二の滿潮時との間隔が僅かに二時間有餘、従つて水深の差極めて少なく、何時でも大型遠洋航路船の入港に適してゐます。港灣施設も完備し、大なる船渠、乾船渠を有し、其乾船渠の大なる事は世界に於ても稀れで、港内には常に二萬噸以上の大船舶が多數繋留されてゐます。南米、北米、地中海、濠洲方面との航運頻繁にして、特に歐洲と北米大西洋岸との旅客連絡の鍵關をなし、キユナード・ホワイト・スター等の世界の代表的客船會社の巨船は殆んど皆寄港致します。

ターミナス停車場の西にはクインス公園があり、之に續いて砲臺があります。市の南部には古代城壁の遺跡多く、South Gate は古代の塔の牢獄として使用されたものであり、West Gate は古城壁の一部であります。尙 Blue Anchor Lane には古代ノルマン人住居の遺物である King John's House があります。タウンキイの北ハイ・ストリートには華美な古典的な建築物多く、またハートレー大學の圖書館博物館の正面玄関は伊太利風のもので特に目立つてゐます。其北端にある Bar Gate は十一世紀城塞の遺物で、生粋のノルマン城門の形式を知る好參考資料であります。市の西南二哩にある Netley Abbey はシートの派の僧院で、ヘンリー三世の建設したものであります。眺望絶佳の地にあつて、其廻廊、會館、僧堂等いづれも英國古代建築の精粹で、俱に一見の價値あるものであります。

十四、神都アテネ觀光

希臘の首府アテネは遠く二千五百年の昔人智學藝が百花燎爛と咲き亂れた神都であります。國外からの鐵道はベル

グラードとイスタンブールからの二線がサロニカで合して南下して來るもので、海路はビレウス、サロニカ、パトラス諸港を経るものですが、ビレウスはアテネを去る五哩、其の門口として最も便利であります。以下アテネの著名な觀光個所につき略記します。

アクロポリス丘城 (Acropolis)。海拔五百十一呎のアクロポリス丘に繞らされた城壁と、其の上に立ち並ぶ大理石の諸神殿は旅人の目を奪ふ偉觀であります。先づ門をくゞつて大理石の階段を登るとアクロポリスの玄關プロピレヤ (Propylaea) に達します。途中左手に高く築きあげられた正方形の台座は羅馬時代アテネに功績のあつたアグリッパ將軍像の立つてゐた所で、右手に聳えるシモン城砦にはアテナ・ニケ (戰勝女神) の小神殿が立つてゐます。神殿はプラテアの野にペルシア軍を大破し得た (紀元前四七九年) 感謝のためアテナ女神に捧げられたもので、紀元前四五〇年建立、ギリシヤ建築の小品的存在として尊まれてゐます。シモン城砦からの眺望は絶佳です。アクロポリスの大玄關プロピレヤはベリクレスがバルテノン神殿の次に着手したもので工匠ムネシクレスの設計造築にかゝり、一千萬ドラクマの巨費と五ヶ年の歳月を費して紀元前四三二年に竣工したものです。其の背後大理石塊の散亂してゐる廣場がアクロポリス廣場で、正南南寄りに壯大なバルテノン (Parthenon) 大神殿が鎮座し、之に對して左方にエレクテイオン (Erechtheion) 神殿と處女柱廊が望まれます。

バルテノン (Parthenon) 大神殿。ベリクレス隆盛時代にペルシア軍に焼き拂はれたアテナ・パラス神殿跡をとし、イクチナスの設計により紀元前四四七年着手し營々十年の後完成したものであります。完成の紀元前四三八年には堂内に巨匠フェイディアスの名作象牙と黄金の大アテナ女神像が安置され、最初の汎アテナ祭と共に盛大な儀式が行はれました。神殿は外側に四十八基のドーリヤ式列柱を繞らし、神堂は壁體で東西二室に分れ、東溜の間から入つた室がヘカトムペドス・ナオス堂でその中央暗色石の床は大女神像が安置されてあつた所、西溜の間より入つた處女堂で全神殿の名は是から出てゐます。神殿全外側に互り欄間飾として神々と巨人の戦、トロイ包圍等の傳説を現した浮彫九十二面が嵌込れてゐましたが、いくつかは英國に持ち去られ、現場及びアクロポリス博物館に残るものは

何れも相當毀損してゐます。東西兩面三角形の破風は神話を表し等身大の彫刻五十體を以て充されてゐました。本堂の欄間は四圍全長五百二十四呎に互り汎アテナ祭行進を表した羽目彫を以て飾られてゐましたが、其中、二百四十七呎は大英博物館に、約百呎はアクロポリス博物館に納められ、現場には西、南兩側に各其一部が残存してゐます。バルテノン^テは約一千年間神殿として存在しましたが、基督教時代に入り西曆五二六年聖母堂となり、後土耳其の手に落ち西曆一四五八年モハメット教のモスクとなり神殿の南西隅に高尖塔が建てられたりしました。後西曆一六八七年ヴェネチア軍の砲撃によりバルテノンに置かれた土耳其軍の彈藥が爆發して神殿の中央部は爆破され、尙僅かに残つた彫像類も目ぼしいものは海外へ搬出されて了ひました。

エレクテイオン (Elechteion) 神殿及處女柱廊 (Caryatides)。バルテノン大神殿の北にエレクテイオン神殿があります。エレクテイオス、アテナ・ポリアス、バンドローソスの三神を祀つたもので、ペリクレスは建造を計畫したのみで歿し、紀元前四〇七年漸く完成、其の後土耳其軍の兵火に罹り現在の見る影もない姿となりました。神殿の西隅は處女神アテナが海神ポセイドンと争つてオリヴ樹を創造した傳説の場所でもあります。處女柱廊は下部が壁體で、其の上に等身大より稍々大きい大理石の處女像六基が屋根を支へて居り、此の下にはアテネ初代の王ケクロプスが葬られてゐると謂れてゐます。

アクロポリス博物館 (Acropolis Museum) 西曆一八七八年の設立にかゝり、主としてアクロポリス丘上に發見された彫刻類を集めてあります。館は玄關を加へて十一室から成り、大略年代順に並べてあるから希臘彫刻發達の跡を見る事が出来ます。

アクロポリス西麓の三丘。再びプロピレエをくぐつてアクロポリスを下る右手に鐵柵で圍れた小丘があるのが、古代希臘の法壇アレオバガス丘 (Areopagus Hill) だ、哲聖ソクラテスが死罪を宣せられ、ペリクレスが愛人なるミレトスの美女アスパシアの爲めに熱辯をふるひ、又使徒パウロが始めて基督教をアテネ人に説いた所でもあります。此の丘に對し左手に見える高丘がフィロパッポス (Philopappos) だ、フィロパッポス壁柱碑が立つてゐます。此の

記念碑は紀元前一四四年の建設にかゝり、中央の壁龕にはフィロパッポス座像、左壁龕には其の父の像があります。右壁龕には亞歷山大王麾下のニカトール將軍の像があつたと云はれます。此の丘の西北麓にはソクラテスが囚れの身となり毒を仰いだ岩窟牢があります。フィロパッポス丘の西北にプニックス丘 (Pnyx) があります。頂上には往古民衆演壇の遺跡があり、丘麓には穴居時代の跡が散在してゐます。

テセイオン神殿 (Theseion)。アレオバガスとプニックス丘の間を西に下ると左手にテセイオン神殿があります。希臘傳説中の英雄テセウスを祀り、紀元四二一年の建造で前後各六基、兩側各十三基づゝのドーリア式列柱から成つてゐます。戦火を浴びなかつたので原型を保つ唯一の神殿と稱されてゐますが、欄間飾の浮彫など少しを残すのみであります。

オデオン奏樂堂 (Odeon)。アクロポリスを下る時左脚下に見える半圓型劇場がオデオン奏樂堂で、最初はプリクレス時代サラミス海戦記念として紀元前四五〇年ペルシア艦隊の艦材を用ひて造築したのを、羅馬時代に入り紀元前二〇〇年富豪ヘロデス・アツチクスがハドリアヌス帝のために石造建築に改めたものです。

ディオニシユス劇場 (Dyonisus)。アクロポリス東南麓にありオデオン奏樂堂から長い石の廊下が續いてゐます。紀元前二〇〇年頃ヘロデス・アツチクスが従來のものに大改良を加へ、舞臺前面を大理石の深浮彫で飾つた宏壯な大劇場としたものです。観客席は三萬人を收容し得たと云はれ、中央貴賓席はディオニシユス神殿宮司の席で酒神祭の情況が浮彫となつてゐます。劇場の内外には小神殿、神祠が散在してゐたもので其の跡が見られます。

オリムペイオン (Olympion) ゼウス大神殿)。ディオニシユス劇場前の大通を左方東に進むと右側に大理石のハドリアヌス帝の門 (Arch of Hadrianus) があります。羅馬時代ハドリアヌス帝がオリムペイオンを含む新市域を作り此の門を境界として建てたものです。門を入ると廣場の中央に巨大な石柱十數基が天を摩して聳えてゐます。希臘神話中神々の王であるゼウスを祀つた神殿で、壯大なる點に於て神殿中の壓巻であつたとの事ですが九十六基の大列柱の中東南に十三基と南西隅に三基を残すのみであります。神殿は最初ペイシストラトスが紀元前五三〇年計畫

したが、彼の政治的没落とペルシャ戦争のため放棄され、紀元前一七四年シリア王エビファネスが起工したが中途にして薨去し、羅馬時代に入りハドリアヌス帝が七、〇八〇ダレントを投じ紀元前一三〇年遂に完成したものであります。ハドリアヌス帝門の向側の小路を入ると六基のコリント式柱で圓形に建てられた碑があります。リシクラテスが紀元前三三五年に建てたものでリシクラテス碑 (Lysicrates Monument) と云はれ、アカマンテス合唱團受賞記念の意味が刻文されてゐます。ディオニシユス劇場から市中に至る間此の種の記念碑が多数立ち並んでゐた由ですが今に残るものは此の碑一つであります。

大競技場 (Stadium)。ハドリアヌス帝門前の大道をオリム、ペイオンに沿ひ右折して進むと大競技場の前に出ます。紀元前三三〇年リコウルガスが建設し、ハドリアヌス帝時代アツチクスが大理石を用ひて美化したのが、土耳其領時代に破壊されて競技も中断されてゐましたが、西暦一八九六年アレキサンドリアのジョージ・アペロフ之が復興に着手し十六萬磅の巨費を投じて一九〇六年竣成、近代に於ける第一回國際オリムピック大會が此所で催されました。場内は五萬の觀衆を收容出來ます。

風の塔 (Tower of Winds) と市場跡 (Roman Agora)。アテネ市の中心を南北に貫くエーオルス街 (Aeolus Street) がアクロポリス北麓に至つて盡きる所に風の塔があります。紀元前三五年天文學者アンドロニクスが建設した氣象臺で八風神が浮彫となつてゐます。風の塔の西に古代市場の跡があります。市場入口にはドーリア式柱四基が残存して破風の殘部を支へて居り、北部には油や鹽などの値段表が石に刻まれて残つてゐます。

アッタルスの哲學柱廊 (Attalus Stoa) 羅馬市場の西方にアッタルスの柱廊又はハドリアヌス帝のストアと稱される列柱講堂の遺跡があります。昔市民が此所に集り哲學其他の學術的講義を聴き議論を闘はしたもので、ストア學派の名は此所から生れて居ります。

アテネ國民博物館 (Musée Nationale) 市の北部パティシア街 (Patisia Street) に在ります。アクロポリスを除く希臘各地の古美術、貴重參考品が集められてあり、ペロポネス半島のミケネエ及びクリト島などで發見され

た有史以前のミケネエ文化時代(今より三千年乃至四千年前)或はそれ以前のものも陳列されてゐます。

以上の外アテネ市内には歴史人種學博物館、貨幣陳列館、ピザンチン時代博物館、繪畫館等があります。市の西部デイピロン (Diplon) にある古代墓地は希臘に現存する唯一のもので、彫像、浮彫等を以て故人の功績や業績を示したものが多數あり、女婢に手傳はせて化粧をしてゐる婦人の浮彫が最もよく知られてゐます。

十五、聖地巡禮

聖地パレスティンは面積我が四國より稍小さく東西三十哩、南北百五十哩を出でず、地中海の波打つ所には北に Haifa、南に Jaffa の港があつて海路よりの出入口をなして居ります。埃及方面より行くには坡西土又はカイロより汽車によるのが最も便利であり、坡西土から約十二時間半で聖地の中心エルサレム (Jerusalem) に達することが出來ます。途中交通の要衝である Kantara に於て渡船で蘇士運河を横切り、約七時間にして Jaffa-Jerusalem 間鐵道との交叉點 Ludd に到ります。カンタラからエルサレム行列車の一等には寢臺車がついて居ります。陸路歐洲方面からは Istanbul, Aleppo, Damascus を經て鐵道が通じて居ります。

聖地の冬は雨季に當り、寒氣は我國より稍々凌ぎ易く、雪は稀にしか降りません。旅行の季節としては三、四、五月の頃が最も好く、三月には雨も止み野は一面に花が咲き亂れ美觀を呈します。

參考迄に聖地巡禮の旅程を二種左に掲げます。

- (一) 第一日 午前 Jerusalem 著、午後自動車で Mount of Olives
 第二日 午前 Mosque of Omar, Church of Holy Sepulchre, Jew's Walling Wall, Via Dolorosa 著、午後自動車で Bethlehem, Church of Nativity, Solomon's Pools
 第三日 自動車で Dead Sea, River Jordan, Jericho
 第四日 Jerusalem 發

- (1) 第一日 Jerusalem 等 Church of Holy Sepulchre へ自動車へ Bethlehem, Church of Nativity, the Pools of Solomon へ
- 第二日 Jews' Wailing Wall, Mosque of Omar, Via Dolorosa 等へ 驢馬へ Mount Zion, Doanatic Church, Oldest Jerusalem, Absalom's Pillar, Garden of Gethsemane, the Virgin's Tomb, Tombs of the Kings 等へ
- 第三日 自動車へ Bethany, Inn of the Good Samaritan を經り死海 Jordan, Elisha's Fountain へ 歸路 Mount of Olives へ
- 第四日 自動車へ Jerusalem へ Nablus へ Jacob's Well, the Samaritan Synagogue 見物、更に Samaria, Plain of Esdralon, Jewish settlements を經り Nazareth へ
- 第五日 Church of Annunciation, Joseph's Workshop 見物、自動車へ Cana を經り Tiberias へ 更に Hot Spring Baths, Magdala, Tabka へ 渡船へ Capernaum へ行き Tiberias へ歸る
- 第六日 自動車へ Nazareth を經り Mount Carmel, Haifa へ 又は汽車へ Damascus 方面へ
- エルサレムは興亡三千年の歴史を持つ悠久の都で人口十萬に近く、ソロモン王の榮華が絢爛と咲いた所で、耶蘇の事蹟によつて不滅の都とされ、更に土耳其領有時代回教徒の風物が増へられました。最近商業都市としての發展目覺しく新生面を開拓しつゝあります。誠に觀光地として興味津々として盡くことなき所があります。唯聖地の大きい悩みは其名に似合はずアラビア人と猶太人との間に争闘が絶えぬことであり。又猶太教、回教、基督教の三信仰が入り亂れてゐる爲め安息日が一週に三日もあり、特にエルサレムの核心をなす Church of Holy Sepulchre が何れに所屬すべきやの疑問があるなどいふ奇現象を呈して居ります。言語もバベルの塔を見るやうにあらゆる言葉が用ひられ、現在英語、ヘブルー語、アラビア語の三つが公用語として官公署の文書等に併用されてゐます。エルサレムを初め觀光場所に關する歴史的事實又は傳説を知ることがは聖地巡禮者にとり有意義且つ必要であります。

から、聖書や案内書で豫備智識を持たれることを御薦めし、此所には概略を述べるに止めることに致します。

Church of Holy Sepulchre は Via Dolorosa の通りを登りつめた所に在り、其の廣大な建物は複雑な會堂をなし、基督を十字架より降した所とか、其の墓地とか色々の傳説豊かな寺院であります。

Haram esh Sherif は一部城壁に圍れ、巨石で築かれた地域を爲し、中央に回教主オマールの爲めに建てられた Mosque of Omar があり、其の南はメッカに向つてゐると謂はれてゐます。その昔猶太人が神に犠牲を献げた大きな岩があるので Dome of the Rock と稱せられてゐます。此のモスクの南方に Mosque of Aqsa があります。Haram esh Sherif の西南猶太人の舊市街にある高い石壁の一部を Jew's Wailing Wall と云ひ、ソロモン王時代の城壁が残つてゐるといふので、金曜日夕方から土曜日にかけて猶太人が此所に集り泣きながらモーゼの聖書を朗讀するので此の名があります。橄欖山 (Mount of Olives) は東の城門 St. Stephen's Gate の外に展開してゐます。途中 Garden of Gethsemane あり、園内に Church of Gethsemane があります。橄欖山には Church of the Ascension があり、此處からヨルダン河や死海が見渡されます。

Bethlehem はエルサレムの南五哩半の地に在り、基督降誕の地へ Church of Nativity があります。羅馬、希臘、アルメニアの三教會が共に聖誕の土地を護る様はお寺氣分濃厚なるものがあります。

エルサレムより自動車によれば橄欖山の南麓を廻り Bethany の里へ Inn of the Good Samaritan を過ぎ、二時間足らずで海面下千三百呎、東西十哩南北四十五哩の大鹹湖死海に達します。River Jordan や Jericho の町など見るべき所があります。

エルサレムの北方 Nablus 迄は自動車で二時間餘、町の入口に Jacob's Well があります。更に途中 Samaria や Plain of Esdralon を過ぎ、彼方此方に新しい猶太人のコロニイを眺めながら、二時間程で基督の故郷 Nazareth に著きます。御告の寺 Church of Annunciation や基督が最初に説教したシナユグがあります。ナザレの背後には最初に水を酒と化した奇蹟の場所 Cana の村があり、其所から暫時にして Galilee 湖畔の Tiberias に著きます。此

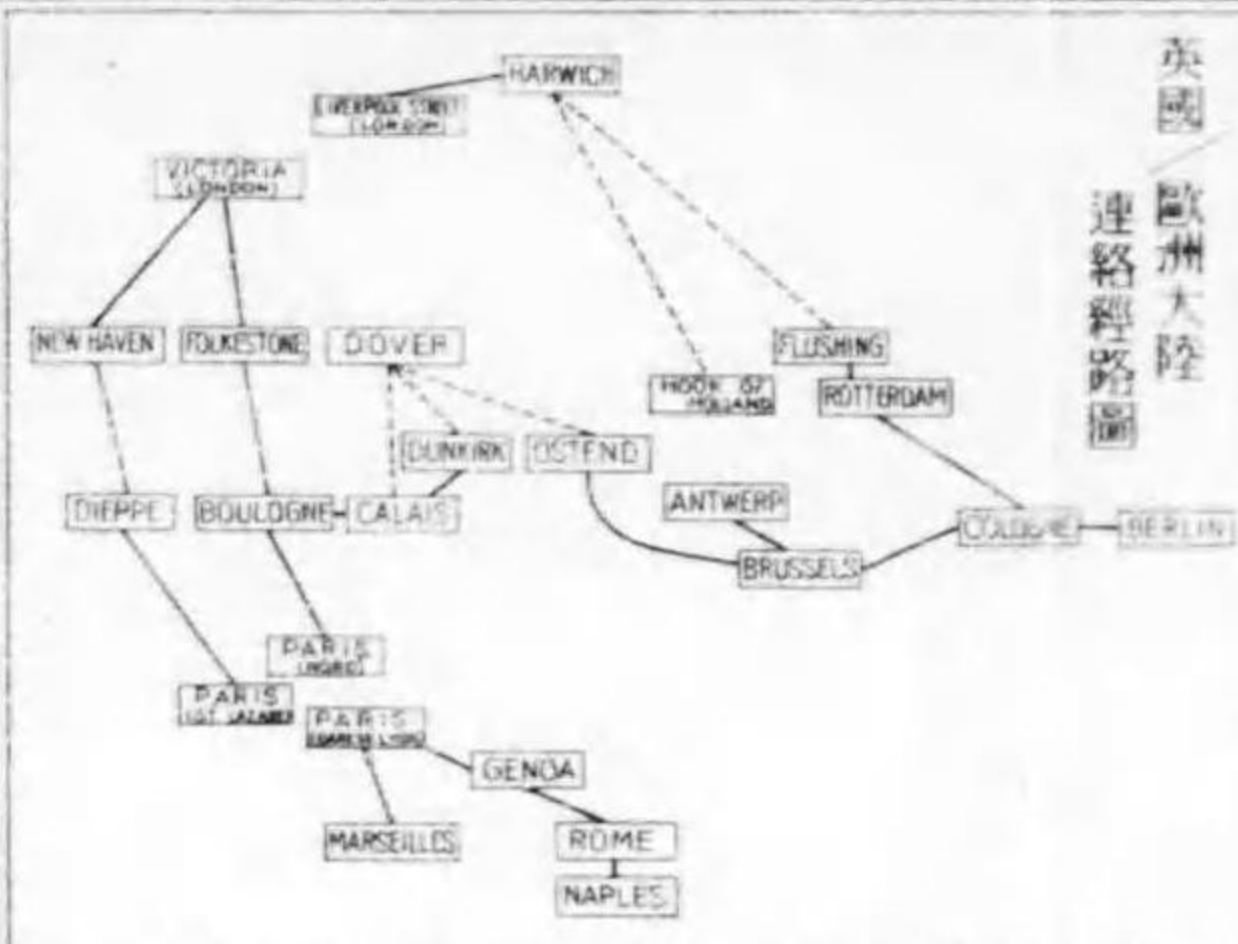
湖は東西十哩、南北十三哩の美しい湖水で海面下七百呎に在ります。湖畔に沿うて Magdala, Tabka, Capernaum の町があり、何れも幾多聖書の遺跡を藏してゐます。ガリラヤ湖がヨルダン河となつて下る所に Samach 驛があり、Haifa-Damascus 線によつて地中海岸の Haifa (二時間半)、又はシリアの Damascus (七時間) 方面へ出ることが出来ます。Haifa で訪ふべきものは Mount Carmel であります。セメント工場、オリイヴ製造所等新興工業都市としての一面を観察するのも面白いでせう。

歐洲大陸旅行日程

をはり

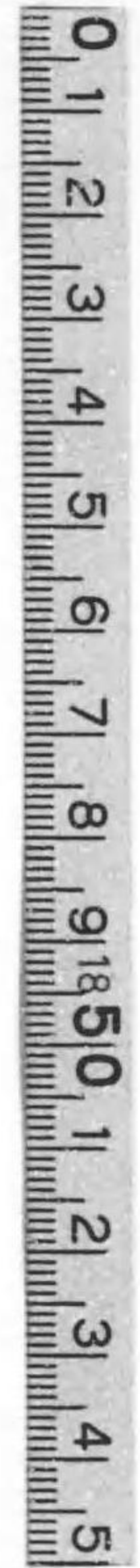


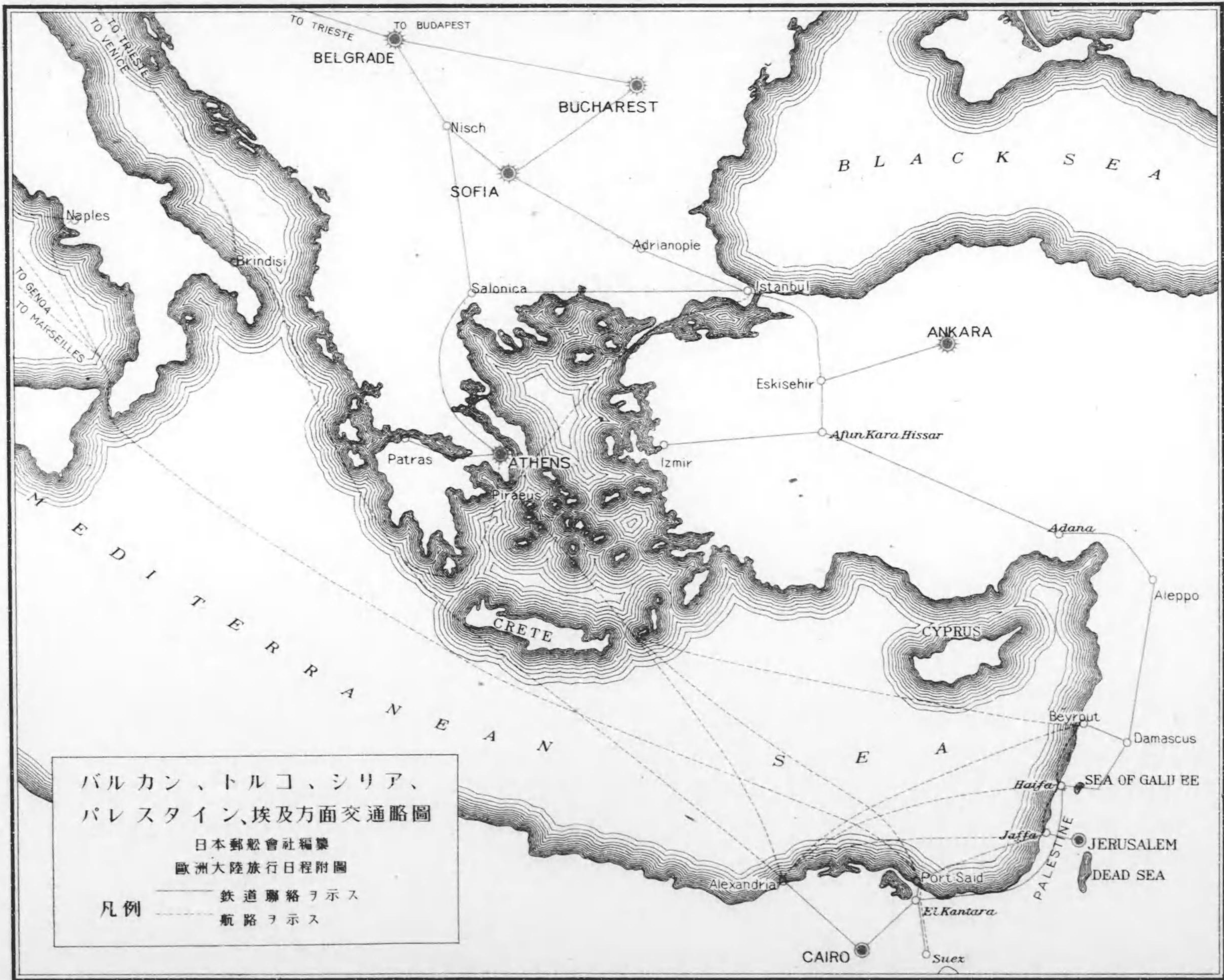
歐洲大陸幹線鐵道圖



凡 例

- 都會
- 主要幹線鐵道
- - - 鐵道
- - - 連絡船便航路







大正十四年十二月二十六日初版印刷
大正十四年十二月二十九日初版發行
昭和十四年十月十三日五版印刷
昭和十四年十月十六日五版發行

(非賣品)

發售所 日本郵船株式會社船客課

東京市麴町區丸ノ内二丁目二十番地一

著者兼 生駒 實

東京市麴町區丸ノ内二丁目二十番地一

印刷者 北川 武之輔

東京市京橋區銀座四丁目四番地七

印刷所 細川 活版所

東京市京橋區銀座四丁目四番地七

不許
複製

終



Vertical text on the left edge of the dark area, possibly a library or archival stamp.